長崎県埋蔵文化財センター調査報告書　第１３集

長崎県埋蔵文化財調査年報２２

［平成２５年度調査分］

２０１５

長崎県教育委員会

はじめに

埋蔵文化財は、歴史的、文化的、教育的な資料として、地域づくり、人づくりに活用できる国民共有の財産です。

長崎県には、３，８００箇所を超える多くの周知の遺跡があります。これらは私たちが、祖先から受け継いできた貴重な財産であり、後世に伝えていくために保存するとともに、広く活用を図っていくことが我々の責務であります。

しかし、埋蔵文化財は開発行為によって破壊されたり、消滅したりすることが避けられないこともあります。そのため長崎県教育委員会では、埋蔵文化財保護を目的とした開発部局との協議を行い、事前に計画変更をお願いし、どうしても事業の変更ができない場合は記録保存のための発掘調査を実施しています。

本書は、平成 25 年度に長崎県教育委員会が実施した、県内埋蔵文化財の発掘調査や遺跡・遺物の保存・活用など、埋蔵文化財保護行政の事業概要を紹介しております。

本書が、県民の皆様にとって、埋蔵文化財への理解を深める一助となれば幸いです。

平成 27 年 3 月

長崎県教育委員会教育長

池　松　誠　二

例　　言

1　本書は長崎県における埋蔵文化財保護行政の現状と長崎県教育委員会が平成25年度に実施した発掘調査の概要を収録したものである。

2　調査概要の遺跡位置図は国土地理院発行の地図（１／２５，０００）を使用している。

3　各遺跡の調査担当者と調査概要の文責は文末に記している。

4　本書の編集は長崎県埋蔵文化財センターが行った。

本　文　目　次

１．長崎県の埋蔵文化財保護行政の現状　・・・　１

（１）本県における公共工事に伴う発掘調査の現状

（２）本県の埋蔵文化財保存活用事業

（３）長崎県埋蔵文化財センターの事業

２．平成２５年度に発行された県内市町発行の埋蔵文化財発掘調査報告書一覧　・・・１０

３．平成２５年度に発行された県教委発行の埋蔵文化財発掘調査報告書一覧　・・・１０

４．事業別発掘調査届出件数及び県市町別埋蔵文化財職員数の推移　・・・１１

５．平成２５年度における発掘調査の履歴　・・・１２

６．平成２５年度　県教委による埋蔵文化財発掘調査の概要

（１）小浜遺跡（範囲確認）　・・・１４

（２）鷹島海底遺跡（分布調査）　・・・１５

（３）小手田遺跡（範囲確認）　・・・１６

（４）原の辻遺跡（範囲確認）　・・・１７

（５）今福遺跡（本調査）　・・・１９

（６）平野遺跡（本調査）　・・・２１

（７）平野遺跡（範囲確認）　・・・２２

（８）平野遺跡（隣接地）（範囲確認）　・・・２３

（９）小路口遺跡（本調査）　・・・２４

（１０）尾和谷城跡（範囲確認）　・・・２５

（１１）黒丸遺跡（範囲確認）　・・・２６

（１２）黒丸遺跡（範囲確認）　・・・２７

（１３）諫早市本明１８－②（試掘調査）　・・・２８

（１４）竹松遺跡（本調査）　・・・２９

（１５）竹松遺跡（本調査）　・・・３０

（１６）竹松遺跡（本調査）　・・・３１

（１７）竹松遺跡（本調査）　・・・３２

（１８）竹松遺跡（範囲確認）　・・・３３

（１９）竹松遺跡（範囲確認）　・・・３４

（２０）竹松遺跡（範囲確認）　・・・３５

１．長崎県の埋蔵文化財保護行政の現状

（１）本県における公共工事に伴う発掘調査の現状

本県では、長崎県埋蔵文化財センター、新幹線文化財調査事務所、佐世保文化財調査事務所（平成２６年３月３１日閉所）が、国や県などの公共工事に伴う発掘調査を実施している。

長崎県埋蔵文化財センターでは、平戸市田平町に所在する小手田遺跡の範囲確認調査を行った。小手田遺跡は、縄文時代の遺物包蔵地とされる遺跡である。主要地方道平戸田平線道路改良工事（田平工区）に伴い、平成２６年２月３日から平成２６年２月１４日にかけて、範囲確認調査を行った。調査の結果、開発予定範囲西側の 2 地点において、弥生時代と中世の包含層を確認した。また市町支援発掘調査事業では、新上五島町に所在する小浜遺跡において、範囲確認調査を行った。小浜遺跡は、縄文時代の遺物包蔵地として周知されている。町道小浜部落内線新設事業に伴い、平成２５年９月２４日から９月２７日にかけて範囲確認調査を実施し、工事対象区域には良好な遺構・遺物が残存していないことを確認した。

新幹線文化財調査事務所では、九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）建設工事に伴う発掘調査を実施しており、平成２１年１０月末と平成２５年８月に実施した分布調査により１３遺跡２８ヶ所（試掘１２ヶ所・範囲確認調査１３ヶ所・本調査３ヶ所）で事業着手前に調査が必要であることを確認した。また、長崎までの同時着工が平成２３年に認可され、大村市内竹松遺跡周辺に計画されていた新幹線の保守基地が車両基地に格上げされたため、建設予定面積が約１１万㎡となり、発掘調査の規模がさらに増大している。調査は用地買収の進捗に併せて実施しており、平成２６年度までに試掘・範囲確認調査、平成２７年度までに本調査を完了する予定である。

平成２５年度の調査としては、大村市竹松遺跡において車両基地部分で約３５，０００㎡、路線部分で約４，７００㎡、平野遺跡の路線部で約１，７００㎡の本調査を実施している。竹松遺跡の車両基地部分では、前年度から継続して弥生時代後期の墓地で発掘調査を行っており、箱式石棺墓２１基、甕棺墓４基、土壙墓７基、祭祀遺構２基が確認されている。箱式石棺墓はほとんどに赤色顔料の付着があり、そのうち２基には標石があるなどの特徴がみられた。また、祭祀遺構１基では焼けた人骨を砕き散布するという希少な事例が確認されている。竹松遺跡の路線部では、弥生時代後期の竪穴建物４基、掘立柱建物１基、溝５条、土壙２３基など狭い範囲の中に多数の遺構が集中しており、集落の一部であると考えられる。その他、遺跡内全域にわたっては、古代から中世にかけての遺構や遺物が多数出土しており、郡衙や城館などが近隣に所在することが推測される。

また、新幹線路線と平行した位置に予定されている都市計画道路の建設に伴い、大村市小路口遺跡の本調査と、同市竹松遺跡・黒丸遺跡・平野遺跡隣接地の試掘・範囲確認調査が実施された。小路口遺跡では、約２，０００㎡で本調査が行われ、弥生時代から古墳時代の遺物を含む南北に流れる自然流路が確認されている。また試掘・確認調査については、用地買収等調査の要件が整った約１４０㎡で

竹松遺跡発掘調査風景

実施し、縄文時代晩期から中世までの遺構や遺物が一部で確認されたことから、記録保存調査の範囲について協議を行うこととした。

佐世保文化財調査事務所は、今福遺跡の 2,700 ㎡について発掘調査を実施した。これにより、平成 20 年度に始まった、一般国道４９７号西九州自動車道（伊万里松浦道路）埋蔵文化財発掘調査委託事業の発掘調査は終了し、佐世保文化財調査事務所は閉所することとなった。当該発掘調査の報告書は、平成 26 年度に新幹線文化財調査事務所下本山現場事務所において作成し、刊行される。

その他、平成２５年度に実施した調査としては、県立ろう学校移転に伴い大村市黒丸遺跡において範囲確認調査を約１１０㎡の範囲で実施し、縄文時代後期から中世までの遺物包含層を確認した。

（２）本県の埋蔵文化財保存活用事業

～ 明日につなぐ埋蔵文化財人づくり事業　～

○開発部局・文化財保護部局担当者文化財基礎研修

目　的　(1)開発部局担当者に文化財に対する理解を深めてもらい、その取り扱いについて具体的な情報を提供することにより、円滑な文化財行政を推進する。

(2)文化財主管課担当者に基礎的な知識を習得する場を提供し、文化財の保護に関する基本的な考え方や事務手続きなどの理解を深めさせ資質の向上を図る。

期　日　平成２５年５月１７日（金）

会　場　県立長崎図書館「講堂」

参加者　・県及び市町開発部局担当者

・県及び市町文化財担当者（実務経験３年未満を主体）　計８８名

内　容　・埋蔵文化財諸届に関する確認事項

・埋蔵文化財関係補助金制度の説明

・専門（技術）研修について

○長崎県市町文化財保護行政担当者会議（専門研修）

目　的　市町文化財保護行政主管課の課長及び担当者に、文化財保護に関する新たな情報や専門的な知識を習得する場を提供し、統一的なテーマを中心に講義・事例発表・討議などを行うことにより専門的な資質を向上させ、本県文化財保護行政の適切かつ円滑な推進を図る。

期　日　平成２５年１１月１８日（月）

会　場　長崎県美術館

参加者　県及び市町文化財行政担当者　　計２７名

内　容　・県内各地の代表的な民家の選定について

・現状変更に対する適切な対応について

・「文化財保護ネットワーク」について

・その他、市町からの協議・照会事項に対するグループ協議

○埋蔵文化財担当者専門技術研修

目　的　長崎県内の遺跡から出土した資料の恒久的な保存と活用を行うための基礎的な考え方および

技術を習得する。

日　時　平成２５年１２月５日（木）・６日（金）

会　場　長崎県埋蔵文化財センターおよび原の辻遺跡発掘現場

参加者　県内市町埋蔵文化財担当者　２名

内　容　・保存処理施設説明

・金属製品保存処理実習

・精密分析機器による調査実習（黒曜石の蛍光Ｘ線分析）

・原の辻遺跡発掘現場見学

専門技術研修実習風景

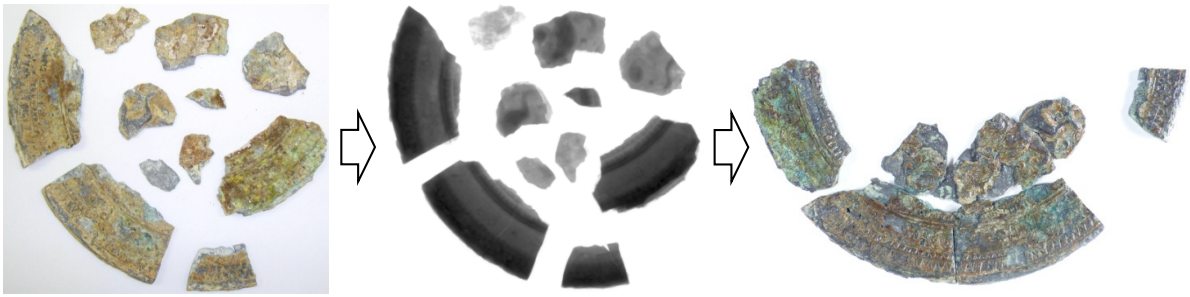
（３）長崎県埋蔵文化財センターの事業

①調査研究事業

埋蔵文化財センターの開所以来実施している、重要遺構確認を目的とした原の辻遺跡範囲確認調査に加え、今年度から重要遺跡情報保存活用事業として、鷹島海底遺跡の分布調査を行った。原の辻遺跡調査研究事業では、平成２５年１０月１７日から１２月２７日にかけて、川原畑地区の範囲確認調査を行った。これまでこの地区では、土坑・ピットが多く確認されていたが、今次の調査で初めて竪穴建物が確認された。また遺跡の一部においては、遺跡を構成する基本的な層序を確認するため、更新統までの掘り下げを行い、完新統の原の辻層の形成が、従来の想定より２０００年以上も遡る 6420±40yBP より古いことを確認した。また、鷹島海底遺跡では、国指定史跡範囲の追加指定を目的として、平成２５年８月１９日から８月３０日にかけて分布調査を行い、潜水による目視確認調査の結果、１３点の元寇関連遺物の分布を確認した。

②保存処理事業

国庫補助事業により県保有資料の保存処理を行っており、平成２５年度は木製品１６７点、金属製品１２０点、骨角製品６点の計２９３点の保存処理を行った（表１）。また県内市町が保有する資料に関しても所定の申請を行えば保存処理施設の利用を許可しており、平成２５年度は４市からの利用があり２８６点の保存処理を行った。



（処　理　前）　（透過Ｘ線写真）　（処　理　後）

掛木古墳出土「四神文鏡」の保存処理

出土遺物の保存処理に伴う事前調査機器（精密分析機器）も保有し、金属製品の材質分析や構造調査も行っている。外部利用も対応しており、平成２５年度は８機関が、実体顕微鏡撮影装置、透過Ｘ線撮影装置、蛍光Ｘ線分析装置、走査型電子顕微鏡、赤外線カメラを利用した（表２）。

表１　平成２５年度国庫補助事業による保存処理一覧

遺跡名	所在地	材質	処理点数	処理方法	備考
原の辻遺跡	壱岐市	木	２９点	PEG含浸処理	長崎県埋文センター報告書第1・5・9集
沖城跡	諫早市	木・漆	３点	PEG含浸処理	長崎県文化財調査報告書第143集
			５点	ラクチトール含浸処理	
玖島城跡	大村市	木・漆	２点	PEG含浸処理	長崎県文化財調査報告書第167集
			２点	ラクチトール含浸処理	
長崎奉行所跡	長崎市	木・漆	６５点	PEG含浸処理	長崎県文化財調査報告書第183集
			５１点	ラクチトール含浸処理	
			１０点	トレハロース含浸処理	
平野遺跡	大村市	鉄	４点	透過エックス線撮影 ↓ 錆取り作業 ↓ 脱塩処理（鉄器） ・ BTA処理（銅製品） ↓ 接合 ↕ 樹脂含浸強化	
塔ノ首遺跡	対馬市	鉄	２点		長崎県文化財調査報告書第17集
野田古墳	大村市	鉄	１点		長崎県文化財調査報告書第93集
掛木古墳	壱岐市	銅・青銅	１点		長崎県文化財調査報告書第106集
栄町遺跡	長崎市	銅・青銅	４点		長崎県文化財調査報告書第162集
石田城跡	五島市	銅・鉄	１点		長崎県文化財調査報告書第163集
長崎奉行所跡	長崎市	鉄	４点		長崎県文化財調査報告書第183集
		その他	１点		
竹松遺跡	大村市	鉄	９３点		
		銅・青銅	５点		
		その他	４点		
原の辻遺跡	壱岐市	骨	６点	アクリル樹脂強化	長崎県埋文センター報告書第5集

表２　平成２５年度精密分析機器外部利用一覧

調査日	機関名	使用機器	使用目的
平成25年4月	長崎県美術館	実体顕微鏡、走査型電子顕微鏡	油彩画彩色層の分析
平成25年6月	松浦市教育委員会	透過X線撮影装置	海底遺跡出土鉄器の調査
平成25年9月	対馬市教育委員会	実体顕微鏡、透過X線撮影装置	金属製品の調査
平成25年10月	長崎市文化観光部	実体顕微鏡、透過X線撮影装置、蛍光X線分析装置	ガラス関係資料の調査
平成25年11月	唐津市教育委員会	蛍光X線分析装置	玉類の調査
平成25年12月	NPO法人アジア水中考古学研究所	携帯型蛍光X線分析装置、デジタルマイクロスコープ	碇石の石材調査
平成26年2月	（公財）平戸市振興公社	透過X線撮影装置、赤外線カメラ	御掛け絵の調査
平成26年3月	長崎市文化観光部出島復元整備室	透過X線撮影装置	金属製品の調査
平成26年3月	佐世保市教育委員会	実体顕微鏡、透過X線撮影装置	金属製品の調査
平成26年3月	対馬市教育委員会	実体顕微鏡、透過X線撮影装置	金属製品の調査
平成26年3月	NPO法人アジア水中考古学研究所	携帯型蛍光X線分析装置、デジタルマイクロスコープ	碇石の石材調査

③教育普及事業

＜キッズこうこがく研究所＞

埋蔵文化財センターは壱岐市立一支国博物館に併設しており、その施設の１階に、埋蔵文化財の知識の普及啓発・広報活動を目的とした「キッズこうこがく研究所」（約１００㎡）を設けている。開所以来、発掘作業体験、土器パズル、ペーパーパズル、ぬり絵など、子どもが楽しんで学べる教材を提供している。平成２６年１月１２日には、キッズこうこがく研究所への子どもの入場者数が５万人に達し、５万人記念セレモニーを行った。

５万人記念セレモニー

【平成２５年４月１日から平成２６年３月３１日までの入場者数】

子ども	大人	計
10,829 人	22,072 人	32,901 人

＜オープン収蔵展示＞

調査研究の成果を博物館で展示･情報発信することを目的に､オープン収蔵庫(高さ５ｍのガラス張りで、キッズこうこがく研究所および博物館２階より内部を見ることができる収蔵庫)で遺物展示を行っている。平成２５年度は以下の遺物展示を行った。

テーマ	主な展示品	期　間
『いのり、展』	卜骨（カラカミ遺跡）、ひょうたん形土器（カラカミ遺跡）、懸仏（壱岐嶋分寺跡）、ロザリオ（万才町遺跡）	平成２５年６月４日～平成２５年１２月１日
『戦い。展』	打製石鏃（黒丸遺跡）、銅剣（諫早農業高校遺跡）、銅戈（ガヤノキ遺跡）、鉄鏃（古路松古墳、妙法塚古墳）、日本刀（長崎奉行所跡）、エンフィールド銃（壱岐市民俗資料）、防毒面（岩原目付屋敷跡）	平成２５年１２月３日～平成２６年６月１日

＜情 報 誌＞

考古学情報誌として｢南北市耀 第４号｣を平成２６年３月に発行した。「南北市耀（なんぼくしてき）」は見開き４ページの構成で、発掘情報などを掲載しており、ホームページで閲覧できる。また、子ども用情報誌として「キッズこうこがく」を見開き４ページの構成で６月および１２月に発刊した。「キッズこうこがく」は「キッズこうこがく研究所」の紹介や、子どもたちの考古学への興味・関心を楽しみながら高めることを意図した「マイブンクエスト」などの記事を掲載しており、県内学校や教育機関などに配布し、ホームページにも掲載している。

「南北市耀」と「キッズこうこがく」

＜ホームページ公開更新＞

ホームページ（http://www.nagasaki-maibun.jp/）には『施設案内』のほか、近年の発掘成果を紹介している『発掘情報』、オープン収蔵展示や教育支援事業などを紹介する『インフォメーション』、刊行物やキッズこうこがく研究所のイベントなどを紹介する『イベント情報』、収蔵している出土品や精密分析機器の『施設利用』に関する申請書などを掲載している。

（平成 26 年 9 月に一部内容を改定しリニューアルしている。また、平成 26 年 9 月には Facebook を立ち上げて親しみやすい情報の発信に取り組んでいる。）

＜精密機器で調べてみよう＞

『精密分析機器で調べてみよう』と題し、主に小学生を対象とした体験学習を年間１０回行っている。子どもたちに分かりやすく、また興味を示すようなアイデアを盛り込み、各機器の特性を活かした工夫をこらしている。身近なものを、精密機器を用いて観察、分析することで得られる情報から、埋蔵文化財センターの仕事内容や成果の普及活動に努めている。

＜資料貸出・閲覧・掲載許可＞

収蔵する出土品の貸出や資料閲覧、写真等掲載に関して、所定の申請を受け、使用目的等適当であれば許可している。平成２５年度は２４件の申請があり約２千点に関して対応した。

平成25年度実績	件数	点数
考古資料等貸出	3	29
考古資料閲覧	4	1918
写真等掲載許可	16	50
その他（実測図等）	1	5
	24	2002

＜長崎県立壱岐高等学校「東アジア歴史・中国語コース」支援事業＞

特色ある取組の一つとして、壱岐高校の離島留学コースである「東アジア歴史・中国語コース」の授業を、センター職員が担当する教育支援事業を行っている。平成２５年度は、１年生の「歴史学入門」９回、２年生の「考古学入門・生活文化史」で１９回、３年生の「課題研究」で２回を実施した。授業形態は、一般的な講義型式のものから、土器作り・石器作りという体験型、原の辻遺跡の発掘体験や古墳巡検など多様な内容となっている。

石器の製作体験

原の辻遺跡の発掘実習

平成２５年度　開講授業一覧

			歴史学入門（１学年）		考古学入門・生活文化史（２学年）		課題研究（３学年）	
月	日	曜	授業名	担当者	授業名	担当者	授業名	担当者
4	17	水			考古学研究法（講義）	古澤		
	24	水			土器概説①（土器作り実習）	町田		
5	1	水						
	8	水	一支国博物館・県埋蔵文化財センター見学	田口・片多	土器概説②（土器焼成）	町田		
	22	水	歴史学入門	田口	石器概説（石器づくり実習・講義）	川道		
	29	水	東アジアの歴史（講義）	古澤	東アジアの歴史（講義）	古澤		
6	10	月					課題研究支援①	古澤
	12	水			博物館学・展示方法の研究	片多		
7	3	水	東アジアの地誌（講義）	白石	東アジアの地誌（講義）	白石		
	8	月						
9	11	水			木器・金属器概説（講義）	片多		
	18	水			考古学調査法（講義）	川道		
10	7	月					課題研究支援②	古澤
	23	水	原の辻遺跡特論	田口	原の辻遺跡特論	田口		
11	13	水	原の辻遺跡発掘体験①	古澤・田口	レベル実測①（実習）	古澤・田口		
	20	水	原の辻遺跡発掘体験②	古澤・田口	レベル実測②（実習）	古澤・田口		
	27	水	原の辻遺跡発掘体験③	古澤・田口	発掘実習	古澤・田口		
12	14	土	3学年課題研究テーマ発表会	壱岐高	3学年課題研究テーマ発表会	壱岐高	3学年課題研究テーマ発表会	壱岐高
1	22	水			整理作業実習①（ナンバリング・トレース）	古澤		
	29	水			整理作業実習②（ナンバリング・トレース）	古澤		
2	5	水			壱岐の史跡（巡検）	古澤		
	12	水	壱岐の古墳（講義）	田口	壱岐の古墳(講義)	田口		
	19	水			壱岐の古墳（巡検）	田口		
3	5	水			課題研究テーマ検討（ディスカッション）	古澤・田口		

＜全国高等学校総合文化祭「２０１３長崎しおかぜ総文祭　郷土研究部門」＞

７月３１日から８月２日の３日間、全国高等学校総合文化祭「２０１３　長崎しおかぜ総文祭　郷土研究部門」が壱岐市内で開催された。初日には、壱岐市立一支国博物館・長崎県埋蔵文化財センターの巡検が行われ、全国から２３校、１１６名が参加した。館内の巡検にあたっては、県埋蔵文化財センター職員がガイドを担当し、一支国博物館の常設展示、センター内の保存処理施設、収蔵庫内を案内した。巡検終了後博物館の多目的ホール・体験交流室を使って交流会歓迎セレモニーが行われ、参加した生徒たちは当初は緊張した面持ちであったが、会の進行につれ盛り上がりをみせ、お互いの親睦を深めていた。

暑かった共通巡検

親睦を深めた交流会歓迎セレモニー

④東アジア考古学研究事業

＜壱岐市合併１０周年記念 東アジア国際シンポジウム「はるかなる魏志倭人伝の道Ⅱ-」の開催＞

東アジア考古学研究室の研究成果を踏まえ、東アジア世界との交流を明らかにするシンポジウムを開催し、広く情報発信を行うとともに、併せて壱岐市市制施行 10 周年を記念するものとした。

○主　催　長崎県埋蔵文化財センター

○共　催　壱岐市教育委員会

○後　援　壱岐市、壱岐市立一支国博物館、九州北部三県姉妹遺跡連絡会議、朝日新聞社、長崎新聞社、西日本新聞社、毎日新聞社、読売新聞社西部本社、壱岐新聞社、壱岐新報社、壱岐日々新聞社、壱岐ビジョン

○日　時　平成２５年１０月５日（土）

○会　場　壱岐文化ホール（大ホール）

○参加者　２１２名

○内　容

総合司会・・・野上麗（壱岐ビジョン）

趣旨説明　魏志倭人伝の道・・・高倉洋彰（西南学院大学教授）

第Ⅰ部　『魏志』倭人伝時代の東アジア諸国の状況

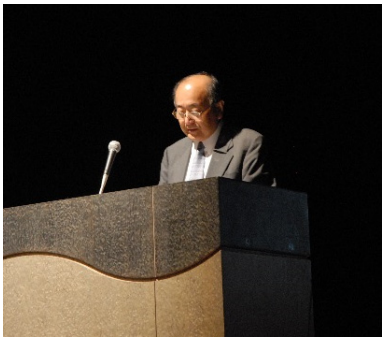
魏志倭人伝時代の遼東郡・・・徐光輝（龍谷大学教授）

魏志倭人伝時代の楽浪郡・帯方郡・・・金武重（崇実大学校）

第Ⅱ部　パネルディスカッション（中・韓・日発表者による各クニグニの紹介と討論）

登壇者・・・高倉洋彰、徐光輝、金武重、安楽勉（新幹線文化財調査事務所）、仁田坂聡（唐津市教育委員会）、角浩行（糸島市教育委員会）、常松幹雄（福岡市経済観光文化局）、江浦洋（公益財団法人大阪府埋蔵文化財センター）

コーディネーター・・・高倉洋彰



高倉洋彰先生

徐光輝先生

金武重先生

パネルディスカッションの様子

開館記念シンポジウムに引き続き「はるかなる魏志倭人伝の道Ⅱ」と題して、中国・韓国の研究者による講演及び魏志倭人伝のクニグニの代表らによるパネルディスカッションの２部構成で実施した。徐光輝先生の遼東郡のお話はこれまでほとんど聞く機会のなかったもので興味深い内容であった。金武重先生の楽浪郡・帯方郡・三韓のお話は非常に分かりやすく好評であった。パネルディスカッションでは魏志倭人伝のクニグニの様子が報告された。当日は、壱岐市内はもとより県内外から 212 名の参加者があり、講演や討論に熱心に耳を傾けていた。

＜長崎県埋蔵文化財センター研究紀要第４号の刊行＞

センター開所以来刊行している研究紀要も巻を重ね第４号にいたった。研究紀要は、センター職員は言うに及ばず、広く県内の考古学研究情報の発信と県内市町の文化財担当者の資質向上を目的としており、第４号では南島原市職員からの投稿もあり、旧石器時代から中世まで合計７本の論考が集まった。

川道　寛･･･「旧石器時代～縄文時代草創期の原の辻遺跡」
古澤義久・田中聡一･･･「縄文時代の原の辻遺跡」
安楽　勉・川畑敏則・古澤義久･･･「壱岐市石田町堂崎遺跡採集資料」
白石渓冴･･･「壱岐島内の箱式石棺墓」
片多雅樹・吉井康史・白石渓冴･･･「三次元計測器および３Ｄプリンターを用いた銅剣の復元
～諫早農業高校遺跡出土銅剣の例～」
林田好子・中尾篤志･･･「九州型石錘の集成と展望」
林　隆広･･･「松浦党城郭雑感～佐志氏の城跡～」

２．平成２５年度 県内市町発行の埋蔵文化財発掘調査報告書一覧

○長崎市教育委員会発行

発行年	報告書名	収録遺跡	シリーズ名	集番号
2014	『桜町遺跡』	桜町遺跡		

○佐世保市教育委員会発行

発行年	報告書名	収録遺跡	シリーズ名	集番号
2014	『市内遺跡発掘調査報告書』	三川内東窯跡ほか22遺跡	佐世保市文化財調査報告書	第11集

○平戸市教育委員会発行

発行年	報告書名	収録遺跡	シリーズ名	集番号
2014	『市内遺跡発掘調査報告書ＸⅢ』	坊田遺跡・トラベ川遺跡・伝外国人墓地跡・横島・里城跡石塔群	平戸市の文化財	第69集

○壱岐市教育委員会発行

発行年	報告書名	収録遺跡	シリーズ名	集番号
2014	『壱岐国分寺跡』	壱岐国分寺跡	壱岐市文化財調査報告書	第22集
2014	『天手長男神社遺跡　市史跡カラカミ遺跡第2次〔カラカミⅢ区　カラカミⅣ区〕	天手長男遺跡･カラカミ遺跡	壱岐市文化財調査報告書	第23集

○雲仙市教育委員会発行

発行年	報告書名	収録遺跡	シリーズ名	集番号
2014	『小路遺跡』	小路遺跡	雲仙市文化財調査報告書	第13集

３．平成２５年度 県教委発行の埋蔵文化財発掘調査報告書一覧

○長崎県教育委員会発行

発行年	報告書名	収録遺跡	シリーズ名	集番号
2014	『長崎県埋蔵文化財調査年報21』	小路口遺跡・鯨見山城跡・伊ノ浦B遺跡・出島和蘭商館跡・原の辻遺跡・知見寺B遺跡・尾和谷城跡隣接地・平松城跡・中田遺跡・専岩遺跡・上三反田遺跡・平野遺跡・小路口遺跡隣接地・竹松遺跡	長崎県埋蔵文化財センター調査報告書	第10集
2014	『出島和蘭商館跡』	出島和蘭商館跡	長崎県埋蔵文化財センター調査報告書	第11集
2014	『原の辻遺跡』	原の辻遺跡（川原畑地区）	長崎県埋蔵文化財センター調査報告書	第12集

※長崎県内発行の報告書については、長崎県埋蔵文化財センターホームページ（http://www/nagasaki-maibun/jp/）のトップページ左側「図書情報検索」から、「書名」・「著者名」・「出版社名」・「キーワード」・「出版年」などの項目で検索できます。

４．事業別発掘調査届出件数及び県市町別埋蔵文化財職員数の推移

（１）事業別発掘調査届出件数の推移

調査の目的・契機	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
a 道　路	1	(1)	1		8	(6)	4	(3)
b 鉄　道	1	(1)			5	(2)	13	(8)
c 空　港								
d 河　川					1	(1)	3	
e 港　湾								
f ダ　ム								
g 学校建設	1	(1)	2	(1)			1	(1)
h 住　宅	3	(3)	12	(11)	9	(7)	11	(9)
i 個人住宅	8	(6)	5	(5)	10	(9)	9	(9)
j 工　場			1	(1)	1			
k 店　舗	1	(1)			1	(1)	7	(7)
l 個人住宅兼工場または店舗							1	(1)
m その他の建物	10	(3)	15	(12)	11	(10)	17	(12)
n 宅地造成	3	(3)	8	(7)	7	(6)	10	(10)
o 土地区画整理								
p 公園造成	3	(2)			1		1	(1)
q ゴルフ場			1					
r 観光開発								
s ガス・電気・水道等	4	(4)			2	(2)	4	(3)
t 農業基盤整備事業	4		5	(2)			6	(3)
u その他の農業関係事業	2	(2)	1	(1)				
v 土砂採取			1	(1)	1	(1)		
w その他の開発	13	(4)	12	(10)	11	(8)	12	(12)
x 自然崩壊	1		2	(1)	1			
y 保存目的の範囲内容確認調査	10	(2)	9	(3)	13	(1)	11	(1)
z 学術調査			1		1		1	
発掘調査届出件数合計	65		76		83		111	

※（　）内数字は件数のうち「開発に伴う試掘・範囲確認調査の報告（長崎県埋文様式５号)」での報告数

※ただし「保存目的の範囲確認調査」の（　）内数字は史跡現状変更申請による発掘調査を示す

（２）県及び市町埋蔵文化財担当者職員数の推移　※（　）は嘱託職員数

区 分	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
県	15(19)	13(19)	15(23)	14(22)	18(32)
市町	48(15)	39(15)	39(14)	36(14)	38(14)
総　計	97	86	91	86	101

５．平成２５年度における発掘調査の履歴

遺跡調査番号	略号	遺跡名	調査開始日	調査終了日	調査原因	記号	調査種別	調査面積(㎡)	調査主体	遺跡所在地	届出通知
過年度		栗山遺跡	2012/4/25	2013/3/29	農業基盤整備事業	t	本調査	970.0	雲仙市	雲仙市	99条
過年度		小路遺跡	2012/5/16	2013/3/29	公園造成	p	本調査	1,300.0	雲仙市	雲仙市	99条
過年度		鍋島陣屋跡	2012/12/11	2013/1/18	その他建物	m	範確	22.0	雲仙市	雲仙市	様式5号
過年度		筏遺跡B	2013/2/7	2013/3/25	その他の建物	m	範確	30.0	雲仙市	雲仙市	様式5号
		栗山遺跡	2013/4/15	2014/3/31	農業基盤整備事業	t	本調査	4,660.0	雲仙市	雲仙市	99条
		壱岐国分寺跡	2013/4/17	2013/9/17	保存目的	y	範確	300.0	壱岐市	壱岐市	99条
		富の原遺跡	2013/5/7	2013/5/15	住宅	h	範確	163.5	大村市	大村市	様式5号
		三城城下跡	2013/5/16	2013/5/25	住宅	h	範確	20.0	大村市	大村市	様式5号
		籠手田城跡	2013/5/16	2013/6/12	その他の建物(集合住宅)	m	本調査	134.0	平戸市	平戸市	99条
		森岳城跡	2013/5/17	2014/3/31	その他開発(被災石垣の積直工事)	w	本調査	390.6	島原市	島原市	99条
		権現脇遺跡	2013/5/20	2014/3/20	河川	d	本調査	1,727.0	南島原市	南島原市	99条
		小野条里遺跡	2013/5/23	2013/5/31	個人住宅	i	範確	4.0	諫早市	諫早市	様式5号
		丸尾遺跡	2013/5/27	2013/6/4	個人住宅	i	範確	8.0	大村市	大村市	様式5号
201301	TAK	竹松遺跡	2013/5/27	2014/1/15	鉄道(車両基地①)	b	本調査	11,500.0	県新幹線事務所	大村市	99条
201303	TAK	竹松遺跡	2013/5/27	2014/3/14	鉄道(路線)	b	本調査	5,340.0	県新幹線事務所	大村市	99条
		竹松遺跡	2013/6/3	2013/6/4	個人住宅	i	範確	15.0	大村市	大村市	様式5号
		桜町遺跡	2013/6/3	2013/6/17	個人住宅	i	本調査	29.6	長崎市	長崎市	99条
		竹辺C遺跡(隣接地)	2013/6/4	2013/6/4	その他の建物(歯科医院)	m	試掘	4.0	佐世保市	佐世保市	様式5号
		尾和谷城跡	2013/6/5	2013/7/31	農業基盤整備事業	t	範確	8.0	諫早市	諫早市	様式5号
		嶽ノ下A遺跡	2013/6/10	2013/6/12	宅地造成	n	範確	54.0	大村市	大村市	様式5号
201302	TAK	竹松遺跡	2013/6/12	2014/3/18	鉄道(車両基地②)	b	本調査	13,557.0	県新幹線事務所	大村市	99条
		鍋島陣屋跡	2013/6/14	2013/8/20	その他建物	m	範確	12.0	雲仙市	雲仙市	様式5号
		竹辺遺跡	2013/6/18	2013/6/19	その他開発(携帯電話基地局)	w	範確	9.0	佐世保市	佐世保市	様式5号
201305	HRN	平野遺跡	2013/6/26	2013/10/15	鉄道	b	本調査	1,700.0	県新幹線事務所	大村市	99条
201306	ORO	小路口遺跡	2013/6/26	2013/10/30	鉄道	b	本調査	2,000.0	県新幹線事務所	大村市	99条
201304	TAK	竹松遺跡	2013/6/27	2014/2/24	鉄道	b	本調査	9,900.0	県新幹線事務所	大村市	99条
		新田遺跡(隣接地)	2013/6/28	2013/6/28	個人住宅	i	試掘	6.0	佐世保市	佐世保市	様式5号
		天ヶ瀬遺跡	2013/6/28	2013/8/23	その他開発(オリーブ植樹)	w	範確	44.0	南島原市	南島原市	99条
201307	OWA	尾和谷城跡	2013/7/8	2013/7/18	鉄道	b	範確	22.0	県新幹線事務所	諫早市	様式5号
		黒丸遺跡	2013/7/9	2013/7/16	宅地造成	n	範確	114.0	大村市	大村市	様式5号
		坊田遺跡	2013/7/16	2013/7/22	その他開発	v	試・範	40.0	平戸市	平戸市	様式5号
		上打越遺跡	2013/7/16	2013/7/24	個人住宅	i	範確	4.0	諫早市	諫早市	様式5号
		黒丸遺跡	2013/7/16	2013/7/25	宅地造成	n	範確	300.0	大村市	大村市	様式5号
		深堀遺跡	2013/7/19	2013/8/8	その他建物(事務所)	m	範確	35.0	長崎市	長崎市	様式5号
		高田城跡	2013/7/22	2013/8/1	道路	a	試・範	4.0	雲仙市	雲仙市	様式5号
		深堀陣屋跡	2013/7/22	2013/8/9	その他建物(教会)	m	範確	33.1	長崎市	長崎市	様式5号
		カラカミ遺跡	2013/7/22	2014/1/17	保存目的	y	範確	200.0	壱岐市	壱岐市	99条
		永中遺跡	2013/7/23	2013/9/9	その他建物	m	試・範	24.0	雲仙市	雲仙市	様式5号
		鬼塚古墳	2013/7/24	2013/9/24	保存目的	y	本調査	40.0	佐世保市	佐世保市	99条
201308	IMA	今福遺跡	2013/8/1	2013/12/2	道路	a	本調査	2,700.0	県佐世保調査事務所	松浦市	99条
		黒丸遺跡	2013/8/2	2013/8/9	個人住宅	i	範確	45.0	大村市	大村市	様式5号
		権現脇遺跡	2013/8/5	2014/3/20	河川	d	本調査	1,795.0	南島原市	南島原市	99条
		トラベ川遺跡	2013/8/6	2013/8/20	店舗	k	範確	300.0	平戸市	平戸市	様式5号
		三城城下跡	2013/8/8	2013/8/9	個人住宅	i	範確	8.0	大村市	大村市	様式5号
		黒丸遺跡	2013/8/19	2013/8/29	宅地造成	n	範確	172.5	大村市	大村市	様式5号
201319	TKS	鷹島海底遺跡	2013/8/19	2013/8/30	―		分布調査	10,000.0	県埋文センター	松浦市	―
		岩名遺跡	2013/8/20	2013/8/22	個人住宅	i	範確	8.0	大村市	大村市	様式5号
		平山遺跡A	2013/8/22	2013/8/27	ガス・電気・水道等	s	範確	8.8	長崎市	長崎市	様式5号
		佐世保鎮守府倉庫跡	2013/8/26	2013/8/27	保存目的	y	試掘	21.0	佐世保市	佐世保市	様式5号
		天ヶ瀬遺跡	2013/8/26	2014/3/17	その他開発(企業誘致)	w	範確	108.0	南島原市	南島原市	99条
		出島和蘭商館跡	2013/8/27	2014/3/31	保存目的	y	本調査	705.0	長崎市	長崎市	現状変更届
		大野原遺跡	2013/9/1	2013/12/31	その他建物(公衆便所)	m	本調査	87.5	島原市	島原市	99条
		重籠遺跡	2013/9/5	2013/9/6	ガス・電気・水道等	s	範確	2.5	長崎市	長崎市	様式5号
		伝外国人墓地	2013/9/5	2013/11/7	その他開発	w	範確	100.0	平戸市	平戸市	様式5号
		岳ノ田遺跡(隣接地)	2013/9/6	2013/9/6	道路	a	試掘	3.3	佐世保市	佐世保市	様式5号
		富の原遺跡	2013/9/6	2013/9/12	その他開発(資材車両置場用地)	w	範確	98.0	大村市	大村市	様式5号
		三城城下跡	2013/9/17	2013/9/18	その他開発(駐車場)	w	範確	20.0	大村市	大村市	様式5号
		外浦小路遺跡	2013/9/24	2013/9/24	個人住宅	i	範確	20.0	大村市	大村市	様式5号

遺跡調査番号	略号	遺跡名	調査開始日	調査終了日	調査原因	記号	調査種別	調査面積(㎡)	調査主体	遺跡所在地	届出通知
201320	OBM	小浜遺跡	2013/9/24	2013/9/27	道路	a	範確	8.0	新上五島町(県埋文ｾ支援)	新上五島町	99条
		清水B遺跡	2013/9/27	2013/9/27	宅地造成	n	範確	6,452.8	大村市	大村市	様式5号
		白井川遺跡	2013/9/30	2013/10/18	個人住宅	i	範確	6.0	東彼杵町	東彼杵町	様式5号
		久保園遺跡隣接地	2013/10/1	2013/10/3	個人住宅	i	試掘	8.0	松浦市	松浦市	様式5号
		金石城跡	2013/10/1	2013/10/22	その他建物	m	範確	4.0	対馬市	対馬市	99条
		金石城跡	2013/10/1	2013/11/1	その他建物	m	範確	437.0	対馬市	対馬市	99条
		筏遺跡B	2013/10/4	2013/12/3	その他建物	m	本調査	500.0	雲仙市	雲仙市	99条
		富の原遺跡	2013/10/9	2013/10/10	道路	a	範確	24.0	大村市	大村市	様式5号
		鷹島海底遺跡	2013/10/10	2013/10/23	学術調査	z	範確	75.0	松浦市	松浦市	92条
201310	HAR	原の辻遺跡	2013/10/17	2013/12/27	保存	y	範確	500.0	県埋文センター	壱岐市	99条
		三城城跡	2013/10/21	2013/11/15	その他開発(駐車場)	w	範確	89.0	大村市	大村市	様式5号
201309	TAK	竹松遺跡	2013/10/21	2013/12/2	鉄道	b	範確	232.0	県新幹線事務所	大村市	様式5号
201312	TAK	竹松遺跡	2013/10/21	2013/12/2	道路	a	範確	20.0	県新幹線事務所	大村市	様式5号
		猿崎遺跡	2013/10/22	2013/10/30	個人住宅	i	範確	4.0	諫早市	諫早市	様式5号
		竹辺遺跡	2013/10/22	2013/11/20	その他開発(携帯電話基地局)	w	本調査	39.7	佐世保市	佐世保市	99条
		玖島遺跡	2013/10/28	2013/10/28	個人住宅	i	試・範	8.0	大村市	大村市	様式5号
		武辺遺跡(隣接地)	2013/10/30	2013/10/30	住宅	h	試掘	9.0	佐世保市	佐世保市	様式5号
		相川屋敷跡	2013/11/1	2013/11/5	ガス・電気・水道等	s	範確	3.6	長崎市	長崎市	様式5号
		冷泉遺跡	2013/11/5	2013/11/8	個人住宅	i	範確	8.0	大村市	大村市	様式5号
		冷泉遺跡	2013/11/5	2013/11/8	個人住宅	i	範確	8.0	大村市	大村市	様式5号
		朝日山遺跡	2013/11/7	2013/11/8	住宅	h	試・範	4.0	雲仙市	雲仙市	様式5号
		鍋島陣屋跡	2013/11/8	2013/11/13	道路	a	範確	6.0	雲仙市	雲仙市	様式5号
		深堀陣屋跡	2013/11/8	2013/12/2	道路	a	本調査	335.9	長崎市	長崎市	99条
		権現脇遺跡	2013/11/20	2013/11/29	河川	d	試・範	16.0	南島原市	南島原市	様式5号
		黒丸遺跡	2013/11/20	2013/12/6	宅地造成	n	範確	114.0	大村市	大村市	様式5号
		古作遺跡	2013/11/27	2014/1/31	道路	a	本調査	256.0	南島原市	南島原市	99条
		峰ノ前遺跡	2013/12/3	2013/12/3	個人住宅	i	範確	2.0	佐世保市	佐世保市	様式5号
201311	TAK	竹松遺跡	2013/12/3	2013/12/26	道路	a	範確	86.4	県新幹線事務所	大村市	様式5号
		中尾上登窯跡	2013/12/3	2014/3/31	保存目的	y	範確	21.4	波佐見町	波佐見町	99条
		天手長男神社遺跡	2013/12/5	2014/1/15	保存目的	y	範確	44.0	壱岐市	壱岐市	99条
		魚の町遺跡(長崎市公会堂前公園)	2013/12/7	2014/1/6	その他建物(庁舎新築計画)	m	試掘	96.0	長崎市	長崎市	様式5号
		山田原遺跡(隣接地)	2013/12/13	2013/12/13	農業基盤整備事業	t	試掘	4.0	雲仙市	雲仙市	様式5号
201313	HRN	平野遺跡	2013/12/16	2013/12/20	道路	a	範確	8.0	県新幹線事務所	大村市	様式5号
		本浦城跡	2013/12/16	2013/12/31	その他建物(事務所建設)	m	範確	320.0	壱岐市	壱岐市	様式5号
		瀬戸越遺跡	2013/12/25	2013/12/25	個人住宅	i	範確	2.3	佐世保市	佐世保市	様式5号
		唐人屋敷跡	2014/1/6	2014/1/7	その他建物(唐人屋敷の象徴門)	m	範確	8.0	長崎市	長崎市	様式5号
201314	KRM	黒丸遺跡	2014/1/9	2014/1/14	道路	a	範確	24.0	県新幹線事務所	大村市	様式5号
		竹松遺跡	2014/1/14	2014/1/15	個人住宅	i	範確	12.0	大村市	大村市	様式5号
201316	HRN	平野遺跡隣接地	2014/1/16	2014/1/23	道路	a	試掘	28.0	県新幹線事務所	大村市	様式5号
		小路遺跡	2014/1/16	2014/2/12	その他建物	m	本調査	150.0	雲仙市	雲仙市	99条
201317	HON	諫早市本明町(遺跡名なし)	2014/1/20	2014/1/27	鉄道	b	試掘	51.0	県新幹線事務所	諫早市	様式5号
		真正寺条里跡	2014/1/24	2014/1/28	道路	a	範確	6.0	雲仙市	雲仙市	様式5号
201315	KRM	黒丸遺跡	2014/1/28	2014/2/18	学校建設	g	範確	108.0	県新幹線事務所	大村市	様式5号
		山田条里跡	2014/1/29	2014/2/3	その他建物(特別養護老人ﾎｰﾑ)	m	試掘	6.7	雲仙市	雲仙市	様式5号
		山田条里跡	2014/1/29	2014/2/3	その他の建物	m	試掘	6.7	雲仙市	雲仙市	様式5号
201318	KOT	小手田遺跡	2014/2/3	2014/2/14	道路	a	範確	40.0	県埋文センター	平戸市	99条
		冷泉遺跡	2014/2/10	2014/2/13	その他の開発(ｿｰﾗｰﾊﾟﾈﾙ設置)	w	範確	24.0	大村市	大村市	様式5号
		富の原遺跡	2014/2/17	2014/2/18	その他開発(駐車場)	w	範確	24.0	大村市	大村市	様式5号
		三城城下跡	2014/2/17	2014/2/18	個人住宅	i	範確	16.0	大村市	大村市	様式5号
		栢ノ木遺跡	2014/2/24	2014/3/17	保存目的	y	範確	54.4	松浦市	松浦市	99条
		竹松遺跡	2014/3/4	2014/3/5	個人住宅	i	範確	16.0	大村市	大村市	様式5号
		黒丸遺跡	2014/3/11	2014/3/12	宅地造成	n	範確	50.0	大村市	大村市	様式5号
		石路遺跡B地点	2014/3/12	2014/3/28	農業基盤整備事業	t	本調査	47.1	壱岐市	壱岐市	99条
		魚洗川B遺跡	2014/3/17	2014/3/19	その他建物(魚洗川自治会公民館)	m	範確	1.2	雲仙市	雲仙市	様式5号
		未周知	2014/3/17	2014/3/19	その他の建物	m	試掘	6.0	雲仙市	雲仙市	様式5号
		山田条理跡	2014/3/19	2014/3/24	店舗	k	範確	6.0	雲仙市	雲仙市	様式5号
		中里遺跡(隣接地)	2014/3/25	2014/3/25	その他開発(商業施設新築工事)	w	試掘	6.2	佐世保市	佐世保市	様式6号
		新行江遺跡	2014/3/27	2014/3/27	住宅	h	試掘	2.4	佐世保市	佐世保市	様式5号
		六ノ坪条里跡	2014/3/27	2014/3/27	個人住宅	i	範確	2.0	雲仙市	雲仙市	様式5号
		新行江遺跡(隣接地)	2014/3/27	2014/3/27	住宅	h	試掘	2.4	佐世保市	佐世保市	様式5号
		早岐瀬戸遺跡	2014/3/28	2014/3/28	ガス・電気・水道等	s	本調査	29.4	佐世保市	佐世保市	99条

６．平成２５年度長崎県教育委員会による埋蔵文化財発掘調査の概要

（1）小浜遺跡（おばまいせき）【遺跡調査番号：２０１３２０】

所 在 地　南松浦郡新上五島町今里郷字小浜観音平

調査主体　新上五島町教育委員会　　**調査担当**　長崎県埋蔵文化財センター

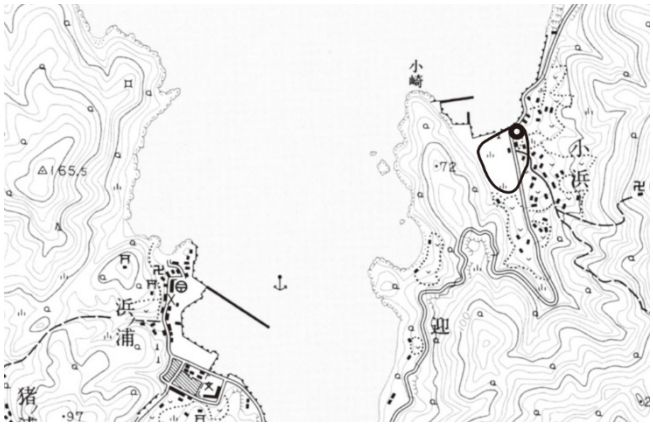
調査原因　町道新設工事　　**調査面積**　8 ㎡

調査期間　平成 25 年 9 月 24 日～9 月 27 日　　**調査区分**　範囲確認調査

報 告 書　刊行予定なし　　**処　　置**　調査後工事

立　地

小浜遺跡は中通島の北西に位置し、山麓面から砂丘海岸にかけて東西１００m、南北３００mの範囲が遺跡に指定されている。



小浜遺跡位置図〔有川〕(S=1/25,000)

調　査

本遺跡については、人骨や縄文土器片が採集されたと言われ、また箱式石棺墓があったとも伝わっているが、これまで本調査がなされておらず、遺跡の内容についてはほとんど明らかにされていない。踏査時には石鏃と黒曜石片が採集されている。平成 25 年度より、町道の新設工事が計画されており、工事対象区域の一部が小浜遺跡の一部に重なることから、範囲確認調査を行った。工事計画をもとに、砂岩の岩盤が露出した丘陵斜面下段と上段に、2m×2m のトレンチを２箇所設定し、それぞれ第１トレンチ、第２トレンチとした。丘陵斜面下段の第１トレンチには、おおよそ 20～30cm の表土（１層～３層）が堆積し、その下には砂岩の風化土の堆積が見られたが（４層）、遺物の包含は確認されなかった。その下（５層）は丘陵斜面に露出しているものと同じ砂岩の岩盤層である。丘陵斜面上段の第２トレンチには、斜面の傾斜に沿っておおよそ 20cm 程度の堆積土が見られ（１層）、その直下に砂岩の岩盤層が見られた（３層）。なお、この砂岩を掘り込む土坑の一部（２層）が確認されたが、内容物から現代の遺構であると判断した。

第１トレンチ完掘状況

まとめ

２つのトレンチにおいて遺構、遺物共に検出されなかった。地勢等を考え合わせて、工事対象区域に良好な遺物包含層は残存していないと判断した。

【調査担当：白石・前田】（文責：前田）

（２）鷹島海底遺跡（たかしまかいていいせき）【遺跡調査番号：２０１３１９】

所 在 地　松浦市鷹島町三里免床浪港東側

調査主体　長崎県教育委員会　　**調査担当**　長崎県埋蔵文化財センター

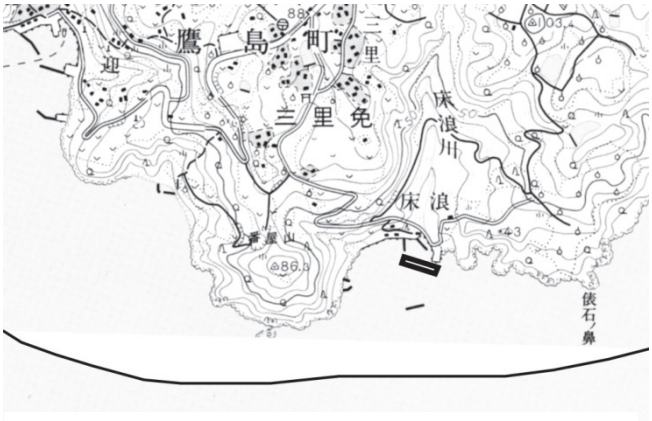
調査原因　－　　**調査面積**　10,000 ㎡

調査期間　平成 25 年 8 月 19 日～8 月 30 日　　**調査区分**　分布調査

報 告 書　平成 29 年度刊行予定　　**処　　置**　現地保存

立　地

鷹島海底遺跡は、伊万里湾に浮かぶ松浦市鷹島南岸延長 7.5㎞、汀線から沖合 200mの約 150 万㎡の範囲に広がる海底遺跡である。



鷹島海底遺跡位置図〔志佐〕（S=1/25,000）

調　査

本遺跡の調査は、昭和５５年から３０年以上にわたり実施されており、蒙古襲来関係の遺物がこれまでに約 4,000 点発見されており、弘安の役（弘安 4・1281 年）に際し、元軍の軍船が沈没した場所として世界史的に評価されている。平成２３年には、琉球大学と松浦市の調査によって元軍の軍船が確認され、３８万４千平方メートルの範囲が鷹島神崎遺跡として平成２４年３月２７日に海底遺跡としては日本初の国史跡として指定されている。長崎県教育委員会では、国指定史跡範囲の追加指定を目的として、平成２５年度から５カ年計画で遺物分布調査を行うこととした。

平成２５年度は、床浪港沿岸に２００m×５０m（１万㎡）の範囲で調査区を設定し遺物分布状況を調査した。考古学の知識を有し、かつ潜水士の資格を持つものを潜水調査員とした。潜水調査員３～５人程度を１チームとし、午前２チーム、午後２チームが調査区内を目視で精査していった。元寇関連と思われる遺物を発見した場合はピンポールを刺して目印とし、複数の潜水調査員の目によって確認作業を行い、元寇関連遺物と判断された遺物に関しては写真、ビデオにて形状等の記録を行い、また遺物から上げたブイを海面上でＧＰＳによって位置を記録していった。

調査風景（船上）

遺物確認状況（褐釉陶器）

まとめ

今年度の調査では、調査区の東側から１３点の元寇関係と思われる遺物（石臼・磚・褐釉陶器・碇石）を確認した。遺物はＧＰＳおよび写真、動画にて記録保存した後、取り上げずにそのまま海底に保存している。

【調査担当：町田・片多】（文責：片多）

（3）小手田遺跡（こてだいせき）【遺跡調査番号：２０１３１８】

所 在 地　平戸市田平町小手田免

調査主体　長崎県教育委員会　　**調査担当**　長崎県埋蔵文化財センター

調査原因　主要地方道平戸田平線工事　　**調査面積**　40 ㎡

調査期間　平成 25 年 2 月 3 日～2 月 14 日　　**調査区分**　範囲確認調査

報 告 書　平成 27 年度刊行予定　　**処　　置**　本調査

立　地

小手田遺跡は、南から北に向かって緩やかに下る、北向きの斜面上に所在する。今回の調査地はそのほぼ中央を横断する工事予定地内の 10 地点である。

小手田遺跡位置図〔平戸〕(S=1/25,000)

調　査

小手田遺跡は、1975 年（昭和 51 年）に縄文時代の遺物包蔵地として周知された遺跡である。これまで本調査がなされておらず、遺跡の内容については明らかにされていない。平成 26 年度より、主要地方道平戸田平線工事が計画されており、このうち約 300m が遺跡範囲を東西に横断する。このため、範囲確認調査を行った。TP-1～TP-9, TP-11 の 10 箇所の試掘坑（TP）を設定し、調査を行った。TP-10 に関しては、周辺の状況から包含層が残存する可能性が低いと判断されたため、掘削を行っていない。

調査の結果、TP-2 には、中世の包含層が 60～70cm の厚さで堆積し、以下に約 20cm 程度の弥生時代の包含層を確認した。TP-2 の包含層は、TP-1 と TP-3 において耕作土の直下に地山が見られること、また周辺の地形から判断して、谷部に堆積した土層である可能性が考えられた。中世の包含層からは、中国磁器（青磁、白磁）、滑石製石鍋の破片といった遺物が、弥生時代の包含層からは弥生土器が検出された。TP-4 においても、TP-2 と同様の堆積や中世及び弥生時代の包含層を確認した。このことから、この周辺から西側において包含層が残存する可能性が考えられた。また、TP-5 より東側の丘陵においては、耕作土の直下に地山が見られ、包含層は確認されなかった。

調査風景

まとめ

範囲確認調査の結果、TP-2～TP-4 周辺には遺物包含層が残存している状況が認められるため、平成２６年度に本調査を行う。

【調査担当：町田・白石】（文責：白石）

（4）原の辻遺跡（はるのつじいせき）【遺跡調査番号：２０１３１０】

所 在 地　壱岐市芦辺町深江鶴亀触 993-1, 994-1, 995-1

調査主体　長崎県教育委員会　　**調査担当**　長崎県埋蔵文化財センター

調査原因　原の辻遺跡調査研究事業　　**調査面積**　500 ㎡

調査期間　平成 25 年 10 月 17 日～12 月 27 日　　**調査区分**　範囲確認調査

報 告 書　平成 26 年 3 月刊行済み　　**処　　置**　調査後埋戻し

立　地

調査対象地は現況で幡鉾川の北側に位置する低地で、水田として利用されている。本地区では 1994 年度に農道・水路建設に伴う調査が行われている。

原の辻遺跡位置図【川原畑地区】

調　査

南北 5m×東西 20m の調査区を 5 箇所設定した。重機を用いて表土を除去した後、人力で掘削した。遺構としては竪穴建物跡 1 基、土坑 27 基、ピット 171 基、不明遺構 4 基、溝 3 条、暗渠 1 基、自然河川を確認した。

【竪穴建物跡】

3 区 3 層で検出した。平面はほぼ円形で、南北軸 445cm、東西軸 449cm である。上部は大きく校正に削平され、明確な下場はみられない。竪穴建物内では中央で炉跡、その周囲でピットを検出した。炉は直径約 158cm の円形で、焼土塊が部分的にみられ、北側では焼土が面的に広がっていた。炉跡北側には被熱礫がみられ、炉の支脚であるとみられる。焼土面直上で底部を欠損した壺が出土したが、炉廃絶時に供献された可能性がある。川原畑地区では土坑・ピットが多く確認されていたが、竪穴建物跡は今次の調査で初めて確認された。

【土坑・ピット群】

多数の土坑・ピット群が検出されたが、平面分布としては 3 区、4 区、5 区にみられ、調査区西側に集中する。隣接した 2012 年度の調査区では、東側に土坑・ピットが多くみられた状況と併せて、土坑・ピット群の集中域が判明した。これらの土坑・ピット群の時期は須玖Ⅱ式が主体的に出土していることから弥生時代中期後葉であるとみられる。土坑の多くは生活用具を廃棄したいわゆる廃棄土坑であるとみられる。4 区で検出された 14 号土坑は内部に 3 点の板石が確認された。

【旧河川】

旧河川は 1a 区と 2a 区、2b 区で検出された。1a 区では河川東岸、2a 区では河川西岸が検出され、幅は約 35m と推定される。1a 区の落ち込みは急であるのに対し、2a 区の落ち込みは比較的緩やかであるという差異がある。河川堆積土内での遺物の出土状況については 1a 区では川岸から 3.2m 離れた地点から西側に多く分布する一方、2a 区では川岸に多く分布するという状況である。以上から、1a 区では比較的流速が速く、2a 区では流速が比較的緩慢で遺物が堆積しやすい状況であったものと考えられる。

このほか 2b 区では近世・近代の流路も検出されており、1939 年に造成され埋め立てられた後、暗渠が整備された状況が確認された。

【1b 区の土層】

1b 区では表土を剥ぐと、弥生時代以前の土層が検出されたため、遺跡を構成する基本的な層序を確認する目的で、更新統まで調査を行った。更新統の幡鉾川層の最上面の標高は 2.55m で、以前ナウマンゾウやオオツノジカが出土した層準とほぼ同じである。今次の調査では動物化石は出土しなかったが、自然木が出土した。また花粉分析の結果、モミ属、トウヒ属、マツ属、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属、トネリコ属などがみられ、最終氷期最寒冷期以前の植生が想定される。完新統の原の辻層の形成年代は従来、原の辻層最下部の自然木の年代である 4200±40yBP が想定されていたが、今次調査 1b 区 28 層から得られた炭化物の補正年代は 6420±40yBP であった。また 28 層の下位に原の辻層が 1m 弱程度堆積していることから原の辻層の堆積年代は従来の想定より 2000 年以上遡るものと考えられる。

【出土遺物】

今次の川原畑地区における調査では弥生時代土器をはじめとする多量の遺物が出土した。遺物は須玖Ⅱ式古段階を中心とする時期の遺物が多い。甕には遠賀川以西系の逆 L 字口縁の甕が多くみられるが、遠賀川以東系の跳ね上げ口縁の甕も一定量認められる。1 号建物跡では鉄器が出土している。1b 区 31 層では細石刃が出土した。

3 区 1 号竪穴建物跡

3 区 1 号竪穴建物跡内の炉跡における壺出土状況

【調査担当：川道・田口・古澤】（文責：古澤）

（5）今福遺跡（いまふくいせき）【遺跡調査番号：２０１３０８】

所 在 地　松浦市今福町仏坂免字五百田　ほか

調査主体　長崎県教育委員会　　**調査担当**　佐世保文化財調査事務所

調査原因　西九州自動車道伊万里松浦道路建設工事　　**調査面積**　2,700 ㎡

調査期間　平成 25 年 8 月 1 日～12 月 2 日　　**調査区分**　本調査

報 告 書　平成 26 年度刊行予定　　**処　　置**　調査後工事

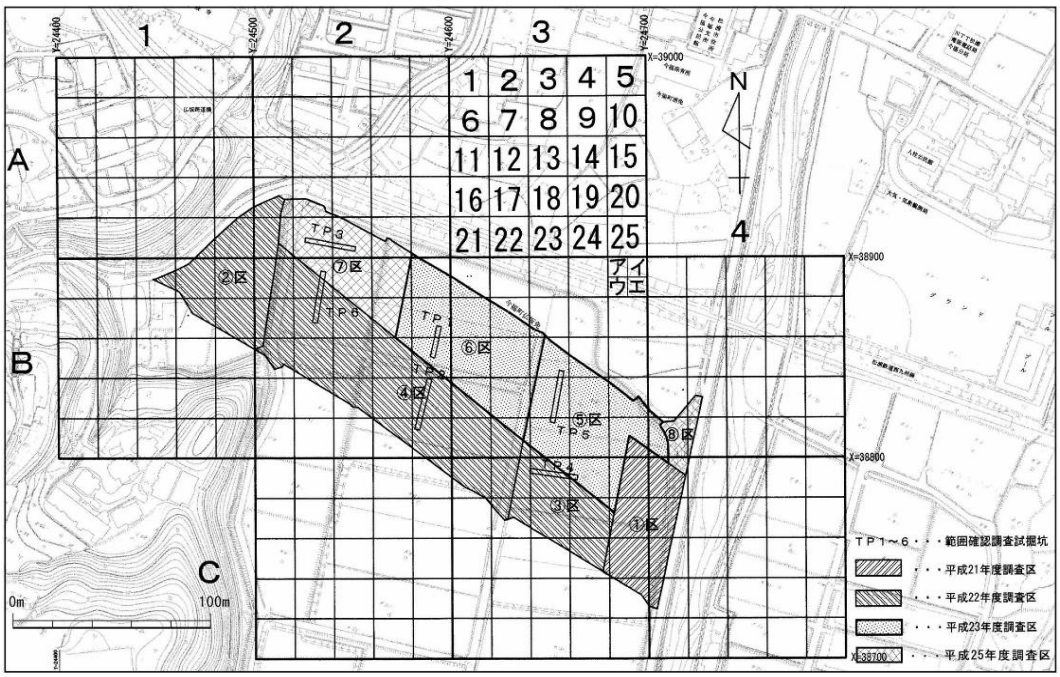
立　地

当該遺跡は、松浦市北東、東に佐賀県伊万里市と接する今福町に所在する。国見岳・人形石山・石倉山を源流に北流して伊万里湾に注ぐ、今福川が形成した沖積平野の水田地帯に展開する。東西約 250m、南北約 300mの範囲で、標高約６m～14m、北に向かって緩やかに傾斜する。現在、海岸線は近世以降の埋め立てによって当該遺跡から 600mほど北に離れているが、それ以前は当該遺跡の付近まで湾が進入していたと考えられる。

今福遺跡位置図［今福］（S=1/25,000）

調　査

平成 25 年度は、当該遺跡の北西部と北東部の 2,700 ㎡について調査を実施した。調査区には、座標系に合わせて南北を主軸とする 100m方眼の大グリッドを設定し、東西を１～４、南北をＡ～Ｃと符号した。大グリッド内は 20m方眼で区画して中グリッドを設定し、１～２５の番号を付した。さらに中グリッド内は



調査区及びグリッド配置図（S=1/4,000）

10m方眼で小グリッドを設け、ア～エと符号した。また便宜上、調査区北西部を⑦区、調査区北東部を⑧区とした。調査は、現圃場の耕作土と整地客土層、旧河道内堆積礫層等を重機で掘削した後に開始した。その結果、各時代における今福川旧河道跡などを検出し、縄文時代～近世の遺物が出土した。

⑦区調査風景

当該調査において出土した遺物点数（破片点数、以下同様）は、約 10,200 点に及んだ。うち、縄文時代の遺物約 2,650 点、古墳～中世の遺物約 6,400 点、その他 1,150 点であった。遺物で特筆すべきは、100 点に及ぶ越州窯系青磁の出土である。越州窯系青磁は過去３年間の当該遺跡発掘調査で 37 点出土したが、合わせて 137 点となり、佐世保市門前遺跡に次ぐ大量の出土となった。遺構は確認できなかったが、⑦区において、２条の旧河道跡（旧河道跡 31・32）と複数(第Ⅱ～Ⅳ層）の遺物包含層を確認した。第Ⅱ・Ⅲ層は複数の旧河道跡埋土層の集合体である。第Ⅱ層は縄文時代～近世に至る遺物を包含し、第Ⅲ層は縄文時代～中世の遺物を包含していた。いずれも狭い範囲で水平方向や垂直方向（河道傾斜角度の違いによる）に複雑に切り合っていたため、個別に旧河道跡を確認することは困難であった。第Ⅳ層上半部は、縄文時代後・晩期の遺物を包含していた。土器約 670 点と石器約 1,600 点が出土した。鈴桶型石刃やつまみ形石器、剥片鏃、石材等の破片が集中して見られ、石器製作場として利用されたことが考えられる。この層も新しい河道に水平・垂直方向ともに複雑に切られており、範囲は確認できなかった。旧河道跡 31 は東→西へ流れたと考えられる。残存する最大長は約 3.5m、最大幅は約 4.5mである。遺物は、古墳時代や古代の土師器を主体として、縄文時代の石器と土器、弥生土器、土師器、須恵器、貿易陶磁器等、約 290 点が出土した。旧河道跡 32 は東→西へ流れたと考えられる。残存する最大長は約４m、最大幅は約６mである。遺物 は縄文時代の石器、土師器，貿易陶磁器等、約 2,160 点が出土した。埋土層上層は平安時代後期（10～12 世紀ころ)、中・下層は古墳時代後期（６～７世紀ころ）の遺物を主体とするため、異なる時代の河道が重複している可能性が考えられる。⑧区は、現圃場に伴う耕作土・耕作土下層土・水田基盤層の３層からなり、それ以下は礫層であった。東隣に今福川や用水路があるので保全のため、また調査区の狭さもあり、礫層の重機掘削は実施できなかった。平成 21・23 年度の調査結果からは、５mほど下の岩盤まで礫層が続くと考えられる。

まとめ

平成 21 年度から始まり、４年に及んだ今福遺跡における一般国道 497 号西九州自動車道（伊万里松浦道路）埋蔵文化財発掘調査委託事業の発掘調査は、平成 25 年度をもって終了した（平成 24 年度は用地買得の遅れから実施できず)。総調査面積 21,400 ㎡からは、長年に渡って今福川とその支流の氾濫原であったため遺構は確認できなかったが、多くの旧河道跡と遺物包含層、総点数約 65,000 点にのぼる遺物を発見し、大きな成果を上げることができた。事業は平成 26 年度に当該発掘調査の発掘調査報告書を作成・刊行して完了する。

【調査担当：杉原・吉住・米倉】（文責：杉原）

（6）平野遺跡（ひらのいせき）【遺跡調査番号：２０１３０５】

所 在 地　大村市鬼橋町 160 番地１　他

調査主体　長崎県教育委員会　　**調査担当**　新幹線文化財調査事務所

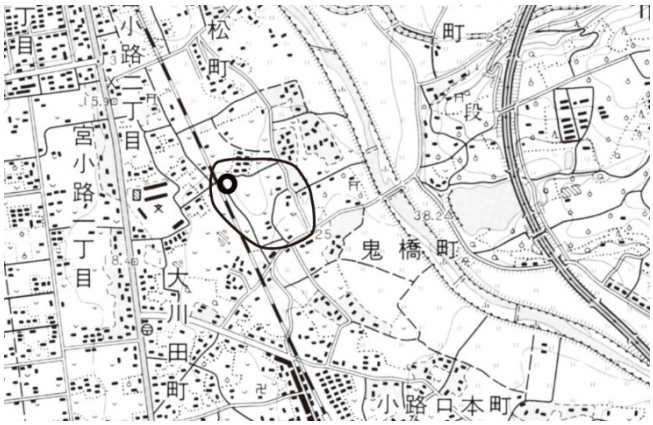
調査原因　新幹線関連　　**調査面積**　1,700 ㎡

調査期間　平成 25 年 6 月 26 日～10 月 15 日　　**調査区分**　本調査

報 告 書　刊行未定　　**処　　置**　調査後工事

立　地

本遺跡は大村市の北部を流れる郡川によって形成された扇状地上に立地し、縄文時代から中世の遺物包含地として周知されている。調査対象地は標高約 20m前後で、南西から北東にかけて緩やかに傾斜した凹地状の地形をなす。



平野遺跡位置図〔武留路山〕（S=1/25,000）

調　査

調査は座標に合わせて 20m四方のグリッドを設定したほか、地形に応じて第１～５のトレンチを設け、土層確認を行った。掘削は，表土を重機で，それ以降の包含層は全て人力で行った。最終的には河川堆積によると思われる大礫を含む黄褐色砂礫層（６層）まで掘り下げた。遺物は表土下約 50 ㎝の黒褐色土（３層）から弥生～中世の遺物が出土し、その下の暗褐色土（４層）からは縄文晩期を中心とした遺物が出土した。遺物は暗褐色土（４層）から出土したものを座標点で記録しながら取り上げた。ただし、遺構については郡川の氾濫に伴う土石流でほとんど失われたと思われ、自然流路の痕跡だけしか窺えなかった。

まとめ

土層の堆積状況からは郡川の氾濫や土石流の痕跡と思われる大小砂礫が調査区の全面で確認できた。ピットらしきものも 10 数基確認したが、遺物を一切伴わず、形状も不整形で、最終的には明確な遺構とは断定できなかった。遺物は縄文時代から近世初頭までの約 5,000 点が出土した。そのうち、石器は僅か約５％で、縄文晩期の扁平打製石斧が目立つ。出土遺物の 94％を占める土器・陶磁器類は土師器の割合が高い。なかでも、５世紀代の高坏を含め供膳具の出土が多く、壺や甕といった貯蔵・煮炊具は少ない傾向にある。その他、黒色土器Ｂ類椀，北宋から南宋代の白磁・青磁や明代の青花磁器、西彼杵半島産の石鍋片もあった。特異な遺物としては、空襲で投下されたアメリカ製 20 ポンド爆弾の一部が 13 個体発見された。

調査風景

【調査担当：本田】（文責：本田）

（7）平野遺跡（ひらのいせき）【遺跡調査番号：２０１３１３】

所 在 地　大村市鬼橋町 157 番地　他

調査主体　長崎県教育委員会　　**調査担当**　新幹線文化財調査事務所

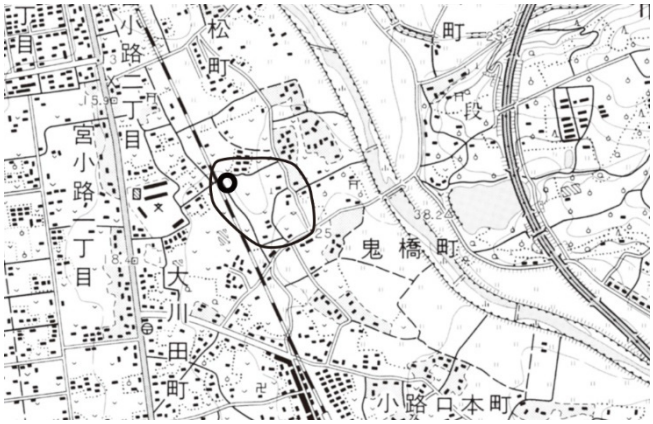
調査原因　新幹線関連　　**調査面積**　8 ㎡

調査期間　平成 25 年 12 月 16 日～12 月 20 日　　**調査区分**　範囲確認調査

報 告 書　刊行未定　　**処　　置**　調査後工事

立　地

大村市は長崎県本土部のほぼ中央に位置し、大村湾の東側沿岸にあたる。市域のほとんどは、北部を流れる郡川によって形成された広大な扇状地上に立地する。本遺跡も同様で、郡川西岸の微高地で標高 22m前後を測る場所に所在する。なお、本遺跡の周辺には、北に竹松遺跡(縄文～中世)、西に竹松小学校遺跡(縄文時代)、東を川端遺跡(弥生時代)、南は立小路遺跡(縄文時代)といった遺物包含地がある。



平野遺跡位置図〔武留路山〕(S=1/25,000)

調　査

本遺跡は平成 25 年 10 月に新幹線建設に伴う本発掘調査が終了したものの、工事着手に際して作業用クレーン等設置準備のための仮設道路敷設が別途必要になった。そのため、本発掘調査区の東側隣接地に２m四方の試掘坑を２箇所設け、確認調査を改めて実施することとなった。調査では表土および第３層(黒褐色土)から合計 20 点の遺物が出土した。第４層(暗褐色土)は本来ならば縄文晩期の遺物を包含する層であるが、著しい砂礫の混入があって欠落し、遺物を確認するにはいたらなかった。特筆すべきものとしては、15 世紀代の中国青磁椀(Ｃ群)と丹塗りの弥生土器片がある。本発掘調査では 14～15 世紀代の遺物は皆無で、供献用の土師器(高坏)は多かったが、丹塗り土器は稀であった。ただ、遺構等は今回の調査でも把握することはできず、概ね本発掘調査と同様の結果となった。

調査区全景

まとめ

遺物は包含するもののごく僅かで、遺構は全くない。工事内容も簡易舗装のみで、新たに掘削を伴うものはない。以上のことを勘案すると、工事着工には何ら支障はないと判断され、慎重工事を行なうよう指示した。

【調査担当：本田】(文責：本田)

（８）平野遺跡隣接地（ひらのいせきりんせつち）【遺跡調査番号：２０１３１６】

所 在 地　大村市鬼橋町 128 番１　他

調査主体　長崎県教育委員会　　**調査担当**　新幹線文化財調査事務所

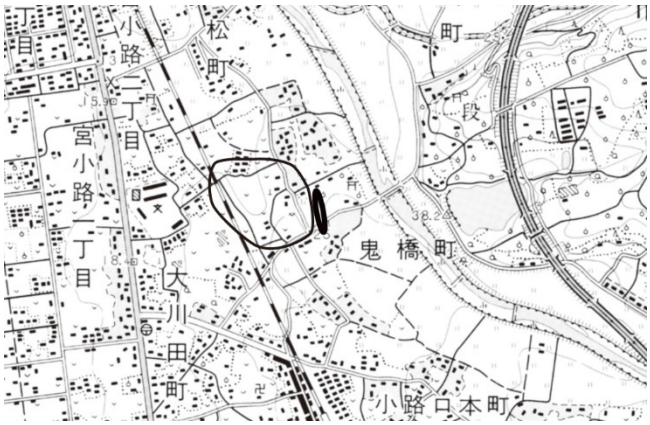
調査原因　都市計画道路「池田沖田線」建設　　**調査面積**　28 ㎡

調査期間　平成 26 年１月 16 日～１月 23 日　　**調査区分**　試掘調査

報 告 書　刊行未定　　**処　　置**　未調査部分の結果により判断

立　地

調査地点は大村市鬼橋町内に所在し、郡川中流西岸の標高 22m前後に立地する。西側に平野遺跡、東側に川端遺跡が隣接し、これまで遺跡として周知されていない地点であったが、都市計画道路「池田沖田線」建設に伴い遺跡の有無を確認するために試掘調査を行った。



平野遺跡位置図〔武留路山〕(S=1/25,000)

調　査

調査は都市計画道路予定地のほぼ中心沿いに２×２ｍの試掘坑をおよそ 20m間隔で５箇所設定し行った。土層はＴＰ３、４で耕作土、黒褐色土（２層）、黒色土（３層）、人頭大の礫を多く含む黄褐色土（４層）となる。遺物は２、３層から陶磁器、土師器、弥生土器等が出土したが、いずれも小片で詳細のわかるものはわずかだった。ＴＰ１、２は同様の堆積であったと思われるが宅地造成の際の造成土が厚く、黒褐色土とその下部の褐色土しか確認できなかった。ＴＰ５は近代以降に撹乱を受けており、深くまで堆積が乱されている。遺構はＴＰ３でピットを、ＴＰ２で土坑状の落ち込みをいずれも調査坑壁面の観察で確認した。

まとめ

今回の調査ではＴＰ３、４で包含層の残存を確認したが、ＴＰ１、２、５が造成による撹乱を受けており、包含層の広がりを確認するにはいたらなかった。ＴＰ２とＴＰ３の間には未調査地が残っており、周辺の都市計画道路用地とあわせて今後確認調査を行う予定であるため、今回の調査範囲部分の処置についてはその結果を待って判断すべきと考える。

TP3 北壁土層断面

【調査担当：山梨・新井】（文責：山梨）

（9）小路口遺跡（おろぐちいせき）【遺跡調査番号：２０１３０６】

所 在 地　大村市鬼橋町 1097 番 3　他

調査主体　長崎県教育委員会　　**調査担当**　新幹線文化財調査事務所

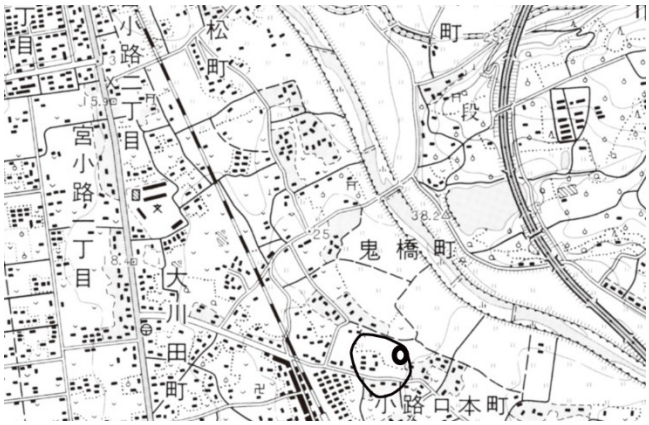
調査原因　都市計画道路「池田沖田線」建設　　**調査面積**　2,000 ㎡

調査期間　平成 25 年 6 月 26 日～10 月 30 日　　**調査区分**　本調査

報 告 書　刊行未定　　**処　　置**　調査後工事

立　地

小路口遺跡は小路口本町及び鬼橋町に所在する。大村扇状地扇頂の西側約 1.5km に位置し、標高は約 29～30m を測る。調査区は遺跡の東端にあたり、現在周辺は宅地や田畑として利用されている。遺跡は縄文時代から弥生時代の包蔵地として周知されており、調査区から 200m ほどの位置に古墳時代後期築造の小路口鬼の穴古墳が所在する。



小路口遺跡位置図〔武留路山〕(S=1/25,000)

調　査

調査区の基本土層は表土下に中世から近世の包含層（２層）、その下層に弥生時代中期から中世の包含層（３層）、黒褐色から褐色を呈する漸移層（４層）、人頭大の礫を多く含む褐色土（５層）となり、５層以下は基盤礫層となる。調査区の３分の１ほどでは表土直下で礫層が検出された。遺構面は２層下面、３層下面の２面で、土坑２基、ピット 44 基、自然流路１条を確認した。遺構の多くは遺物を伴わず明確な時期は不明であるが、ピットの内２基は検出状況から弥生時代後期の遺構と考えられる。自然流路は拳大から人頭大の礫と淘汰の悪い黒色土で一度に埋没しており、土石流等の自然災害の発生が考えられる。流路内からは古墳時代前期を中心として多量の土器が出土している。全体的に摩滅の度合いが低く、近隣に居住域があったものと考えられる。

調査風景

まとめ

今回の調査では居住関連施設は確認されず、主な遺構が自然流路であったことから当調査区域は居住に向かなかったものと考えられるが、遺物の出土状況からは近隣に居住域が存在したことがうかがえる。調査区北側の住宅地は微高地となっており、自然流路が微高地の縁辺に沿うように走っていること、遺物の出土が調査区の北東に偏ることから、居住域はこの微高地上に存在したものと考えられる。

【調査担当：山梨・新井】（文責：山梨）

（１０）尾和谷城跡（おわたにじょうあと）【遺跡調査番号：２０１３０７】

所 在 地　諫早市下大渡野町 2537 他

調査主体　長崎県教育委員会　　**調査担当**　新幹線文化財調査事務所

調査原因　新幹線関連　　**調査面積**　22 ㎡

調査期間　平成 25 年 7 月 8 日～7 月 18 日　　**調査区分**　範囲確認調査

報 告 書　刊行未定　　**処　　置**　調査後工事

立　地

尾和谷城跡は、中世の山城としては広大な面積を有し台地上に占地する。西側と南側を西谷川が迂回し、東を本明川が南流していて二つの河川が南東部で合流している。本城の平面形は略二等辺三角形を呈し、その頂点部は両河川が一番狭くなっていて、そこには掘切があり、現在は橋梁で尾根筋の連絡を行っている。中世期には尾根筋からの敵の侵攻を遮断していたのかもしれない。中世山城は自然地形を利用して造成されるというが、まさに周りを西谷川本明川による天然の堀に囲まれた、守るに堅固な城跡といえるのではないだろうか。

尾和谷城跡〔諫早〕(S=1/25,000)

調　査

調査原因は新幹線トンネル口上部の急斜面地の壁面補強工事によるものである。その急傾斜面に５箇所の試掘坑を設定した。標高が高いところからＴＰ１～５とした。ＴＰ３は、調査対象地の中央で認められた幅１２m、長さ４５m、深さ 1.7mほどの深さがある不明遺構の肩の部分から中心部にかけて、長軸に対して直交する形で設定した。不明遺構は、①：地崩れ等の自然現象によるものか、②：人工的な人による掘削によるのか、③：①と②の複合要因（自然の谷間や地崩れ等に手を入れて堀のような機能をもたせたもの、ないしは人による掘削の後に地崩れを起こした）によるものか、当初は判然としなかったが、竪堀とするには幅が広く、自然崩壊によるものと判断した。

TP3 調査状況

まとめ

今回の調査では、遺物包含層及び遺構を確認することはできなかった。

【調査担当：村川】（文責：村川）

（１１）黒丸遺跡（くろまるいせき）【遺跡調査番号：２０１３１４】

所 在 地　長崎県大村市沖田町 189 番 1　他

調査主体　長崎県教育委員会　　**調査担当**　新幹線文化財調査事務所

調査原因　都市計画道路「池田沖田線」建設　　**調査面積**　24 ㎡

調査期間　平成 26 年 1 月 9 日～1 月 14 日　　**調査区分**　範囲確認調査

報 告 書　刊行未定　　**処　　置**　慎重工事

立　地

黒丸遺跡は大村扇状地北西の扇端にあたる郡川河口付近に位置し、周辺には、東に竹松遺跡、北に寿古遺跡・好武城跡がある。

調査地は当遺跡東端、標高約８ｍに立地し、都市計画道路「池田沖田線」と国道 34 号線の合流部にあたる。

黒丸遺跡位置図〔武留路山〕(S=1/25,000)

調　査

調査は２×２ｍの調査坑を東西 20m間隔で２箇所設定する予定であったが、表土となる宅地造成土が非常に硬く重機による掘削を行ったため、面積がやや広がっている。造成土除去後人力掘削を行ったが、いずれの調査坑も造成土下が砂礫層となり、包含層は確認できなかった。砂礫層には大型の礫も含まれており、郡川の氾濫原となっていたと思われる。遺物は TP2 で弥生土器が出土したが、わずかなため包含層の認定には至らなかった。また、いずれの調査坑でも遺構は認められなかった。

まとめ

今回の調査では遺物包含層及び遺構を確認することはできなかった。

TP2 西壁土層断面

【調査担当：山梨・新井】（文責:新井）

（１２）黒丸遺跡（くろまるいせき）【遺跡調査番号：２０１３１５】

所 在 地　大村市宮小路３丁目

調査主体　長崎県教育委員会　　**調査担当**　新幹線文化財調査事務所

調査原因　学校建設関連　　**調査面積**　108 ㎡

調査期間　平成 26 年 1 月 28 日～2 月 18 日　　**調査区分**　範囲確認調査

報 告 書　刊行未定　　**処　　置**　現状保存

立　地

本遺跡は大村市街地の北部を西流する郡川の河口南側に位置し、黒丸町を中心に約 176 ㎢に渡って広がる大規模遺跡である。この一帯は標高８ｍ前後を測る平坦地で、古代の条里地割も想定されており、沖田黒丸条里跡という名称も併せ持つ。これまでの発掘調査では、縄文晩期から弥生・古墳時代の遺構や遺物が多数出土し、中世まで含む集落跡・遺物包含地として周知されている。

黒丸遺跡位置図〔武留路山〕（S=1/25,000）

調　査

新幹線開通後における大村市北部の都市計画策定と相まって、県立大村城南高等学校竹松農場敷地内の将来的な活用のあり方を探るため確認調査が必要となった。今年度は農場の東半部（約 13,750 ㎡）を対象に、25m間隔で２ｍ四方の試掘坑を 27 箇所設けて実施した。本遺跡の地形や土壌堆積は郡川の氾濫等の影響を大きく受けている。そのため、各試掘坑の層位はまちまちであるものの、基本層序を概ね次のように整理した。第３～５層が遺物包含層で、それぞれ古代～中世、弥生～古墳、縄文～弥生時代の遺物が主に出土する。第６～８層は土のしまりが強い無遺物層で、最下層となる第９層は砂礫層となる。

まとめ

調査では明確なピットや遺構は確認できなかった。ただし、TP15 のラミナ状堆積や鉄分沈着で硬化した木質遺物は、条里畦畔の可能性もある。遺物は縄文後晩期から中世まであり、2,815 点が出土した。縄文時代の磨石や石皿の一括出土は定住生活をうかがわせる。弥生時代は量的にも少なく、古墳時代では６世紀以降の土師器甕や須恵器坏の割合が多くなる。古代・中世では８～13 世紀頃の土器・陶磁器類のほか鉄器生産に伴う遺物もあり、付近に郡衙関連施設の存在を予感させる内容である。

TP15 北壁

【調査担当：本田】（文責：本田）

（１３）諫早市本明町１８－②（いさはやしほんみょうまち）

【遺跡調査番号：２０１３１７】

所 在 地　諫早市本明町３５８

調査主体　長崎県教育委員会　　**調査担当**　新幹線文化財調査事務所

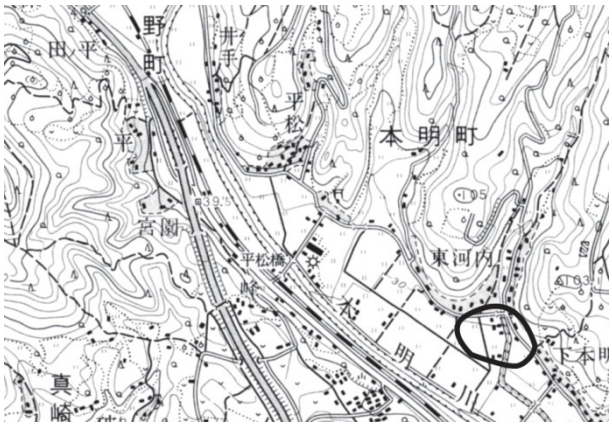
調査原因　新幹線関連　　**調査面積**　51 ㎡

調査期間　平成 26 年 1 月 20 日～1 月 27 日　　**調査区分**　試掘調査

報 告 書　刊行未定　　**処　　置**　調査後工事

立　地

諫早市北部を南北に流れる本明川の開析した細長い沖積地とその東側の河岸段丘上が今回の試掘調査対象地である。平成 23 年度に行った新幹線ルート上の埋蔵文化財包蔵地の分布調査によって、今回調査対象地付近で黒曜石の剥片と時代不詳の石仏が発見されたために調査が必要となったものである。



調査位置図[諫早]（S=1/25,000）

調　査

地形の傾斜に長軸を合わせたものと、直交するもの両方（２ｍ×５ｍ）のトレンチを計 6 か所設定して調査を進めた。結果としては、いずれの試掘調査坑からも遺構・遺物等の検出はなく、自然堆積状況の確認に終始した。

今回の土層については、先に述べたように全ての試掘調査坑における土層の堆積は自然の営為によるものであった。それらの中でも、小河川の流路跡だと思われる砂層が堆積する状況が TP1､2 で認められた。

調査対象地近景

まとめ

今回の調査対象範囲においては、自然堆積以外の人間の営為による遺構・遺物の確認はできなかった。よって、開発するにあたっての事前協議の必要はない。

【調査担当：村川・松元】（文責：村川）

（１４）竹松遺跡（たけまついせき）【遺跡調査番号：２０１３０１】

所 在 地　大村市竹松町 686 番 1 他

調査主体　長崎県教育委員会　　**調査担当**　新幹線文化財調査事務所

調査原因　新幹線関連　　**調査面積**　11,500 ㎡

調査期間　平成 25 年 5 月 27 日～平成 26 年 1 月 15 日　　**調査区分**　本調査

報 告 書　刊行未定　　**処　　置**　調査後工事

立　地

竹松遺跡は大村扇状地の扇央付近、郡川が山間部から扇状地に流れ出す谷口から 1km ほどの場所に位置する。遺跡は縄文時代から中世の包蔵地として周知されており、本調査区はその南西側に位置する。

竹松遺跡位置図〔武留路山〕（S＝1/25,000）

調　査

遺物は、縄文土器（晩期を中心に早期、中～後期）、弥生土器、土師器、須恵器、輸入陶磁器、国産陶磁器、黒曜石剥片、石鏃、石匙、磨製石斧、石包丁、大陸系柱状片刃石斧、石鍋、五輪塔相輪部、石臼等が出土している。遺構では、4 層上面（縄文時代から中世の遺構確認面）で、溝状遺構 10 条、土坑 27 基（縄文時代の落とし穴跡 2 基を含む）、ピット約 900 基、土坑墓 1 基、不明遺構 5 基を検出し調査を行った。層位的には、3 層（黒褐色土層）で縄文、古代、中世、近世の遺物が混在して出土しているが、特定時代の文化層と認められる状況にはなかった。3 層下部～4 層（褐色土層）上部では縄文後・晩期の土器や石器が平面的な拡がりをもって出土しており、当該期の文化層と考えられる。また、中世の遺物が多く出土しており、2～3 層では輸入陶磁器片や石鍋片が多くみられた。溝状遺構では 12 世紀を中心とする輸入陶磁器が多く出土している。

まとめ

縄文時代では石鏃が数多く出土したほか、大村市域では珍しい落とし穴跡を検出し、狩猟域を考える上で重要な成果といえる。中世では、区画溝と考えられる溝状遺構や土坑墓を検出しており、該期の有力者層の集落の一部であった可能性があり、集落範囲を含め今後の検討を要する。ピット群は建物の柱穴として並ぶ状況は確認されなかったものの、縄文時代から中世に至る土地利用を考えるうえで重要な成果となった。

土坑墓半截状況

【調査担当：松元、濵村、小松、松村、堀内、加世田、竹本、久保田】（文責：松元）

（１５）竹松遺跡（たけまついせき）【遺跡調査番号：２０１３０２】

所 在 地　大村市竹松町 1037 番地　他

調査主体　長崎県教育委員会　　**調査担当**　新幹線文化財調査事務所

調査原因　新幹線関連　　**調査面積**　13,557 ㎡

調査期間　平成 25 年 6 月 12 日～平成 26 年 3 月 18 日　　**調査区分**　本調査

報 告 書　刊行未定　　**処　　置**　調査後工事

立　地

本遺跡は大村市竹松町に所在し、縄文時代～中世の遺跡として周知されている。標高は約 10～15 ｍで、大村市を東から西に流れる郡川によって形成された扇状地の北側端部にあたり、南東から北西に緩やかに傾斜する。

竹松遺跡位置図〔武留路山〕(S＝1/25,000)

調　査

調査は座標に合わせて 20ｍ四方の方眼を設定し、表土を重機、包含層は人力で掘削した。弥生時代後期の墓域(1,000 ㎡)は、昨年度からの継続調査である。縄文時代の遺構の検出はなかったが、晩期の浅鉢や甕、石器類、多量の黒曜石剥片が出土した。

弥生時代については墓域の全容を確認した。箱式石棺墓 21 基、土壙７基(うち２基は石蓋土壙)、甕棺墓４基、祭祀遺構２基を検出した。第１号箱式石棺墓・第３号箱式石棺墓は盛土と標石を持ち、第１号箱式石棺墓ではその構造が明確に確認できた。墓域全体の標識と思われる立石も４基検出し、墓の標石と合わせ、石を立てる特異な行為を確認した。祭祀遺構１は、別の場所で焼き破砕した人骨を持ち込み散布した様子が見られた。古墳時代では竪穴建物を検出、市内で最も古い段階に当たる５世紀後半の須恵器坏身が出土した。古代については、掘立柱建物跡６棟(うち１棟は四面庇)を検出し、ほぼ完形の緑釉輪花皿が出土した。中世のものは、掘立柱建物跡１棟と昨年確認した区画溝のコーナーを検出した。また、調査区南側の⑪区では、近世の墓坑を検出し、唐津焼溝縁皿・初期伊万里染付が出土した。

第１号箱式石棺墓(奥)・第３号箱式石棺墓(前)

まとめ

今年度の調査でも、縄文時代晩期から中世中頃まで人々の生活が連綿と続いていたことが分かった。特に、弥生時代の墓域の実態や古代の遺物、中世の区画溝の延長の検出は、昨年度の調査結果と併せて当遺跡の歴史的意義を示す有効な資料であるといえる。

【調査担当：川畑・松﨑・濵村・德弘・田島・東郷・小川・松永・小松】(文責：田島)

（１６）竹松遺跡（たけまついせき）【遺跡調査番号：２０１３０３】

所 在 地　長崎県大村市竹松町

調査主体　長崎県教育委員会　　**調査担当**　新幹線文化財調査事務所

調査原因　新幹線関連　　**調査面積**　5,340 ㎡

調査期間　平成 25 年 5 月 27 日～平成 26 年 3 月 14 日　　**調査区分**　本調査

報 告 書　刊行未定　　**処　　置**　調査後工事

※620 ㎡については次年度継続調査

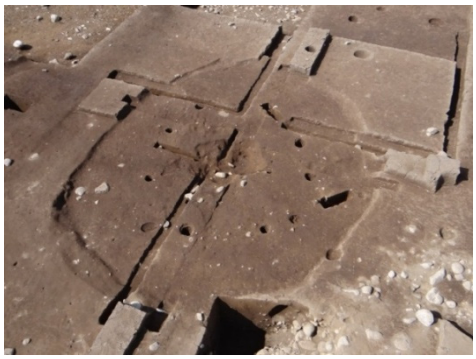
立　地

大村市内には、多良山系を源として大村湾に注ぐ二級河川郡川が流れ、郡川が運搬した土砂によって東西約 2.5km、南北約 6km の広がりを持つ大村扇状地が形成されている。竹松遺跡は、この大村扇状地の扇央付近から 2km ほど西に位置し、現在は宅地や畑として利用されている。縄文時代から中世の包蔵地とし周知されており、本調査区ではその南端および北端に位置する。

竹松遺跡位置図〔武留路山〕（S＝1/25,000）

調　査

調査区は、南北に約 350m 離れて大きく 2 箇所に分かれていたため、北側の調査区を A 区・B 区、南側の調査区を C 区・D 区とした。A 区北半では、東西方向に延びる 12 条の溝状遺構及び自然流路を確認した。自然流路からは、縄文晩期土器、弥生後期土器、古代の須恵器、土師質土器、中世の青磁及び白磁、滑石製石鍋などが大量に出土した。A 区南半から B 区にかけて、弥生時代後期の竪穴建物 4 基、掘立柱建物 1 基、甕棺墓 1 基、溝状遺構 5 条、土坑 23 基、集石遺構 5 基、ピット 202 基を検出した。竪穴建物は楕円形もしくは隅丸長方形で、焼土面と中央土坑が伴う。3 基の竪穴建物の床面付近からはガラス小玉が出土し、うち 1 基では中国製青銅鏡（細線式獣帯鏡）の破片も出土した。C 区ではピット 141 基、土坑 8 基を検出した。C 区南端部では、直径約 50cm のピットが 5 基南北方向に直線的に並ぶことを確認した。柵列もしくは掘立柱建物跡の一部と考えられる。遺物は滑石製石鍋片や近世初頭の陶磁器が少量出土していて、中世末～近世初頭の遺構群と考えられる。



B 区竪穴建物（SC123）完掘状況

まとめ

北側調査区では弥生時代後期の集落跡の一部と、中世の自然流路を検出した。弥生時代後期の集落跡は、調査区の東西では良好に残存している可能性が高いが、北側は中世の自然流路等で破壊されている。調査区南側では、中世末～近世のピット群および土坑群を検出した。遺構群の偏りから、調査区東側を中心に関連する遺構が展開していると推測される。

【調査担当：中尾・川淵・相良・野田】（文責：中尾）

（１７）竹松遺跡（たけまついせき）【遺跡調査番号：２０１３０４】

所 在 地　大村市竹松町９０２番２　他

調査主体　長崎県教育委員会　　**調査担当**　新幹線文化財調査事務所

調査原因　新幹線関連　　**調査面積**　9,900 ㎡

調査期間　平成 25 年 6 月 27 日～平成 26 年 2 月 24 日　　**調査区分**　本調査

報 告 書　刊行未定　　**処　　置**　調査後工事

立　地

本遺跡は大村市竹松町に所在し、縄文時代～中世の遺跡として周知されている。標高は約 10～15 mで、大村市を東から西に流れる郡川によって形成された扇状地の北側端部にあたり、南東から北西に緩やかに傾斜する。

竹松遺跡位置図〔武留路山〕（S＝1/25,000）

調　査

調査は座標に合わせて 20m四方のグリッドを設定し、地形に応じて第１～５の調査区を設け行った。掘削は、表土を重機で、それ以降の包含層は人力で行った。最終的には河川堆積によると思われる大礫を含む黄褐色砂礫層（８層）まで掘り下げた。遺物は３層の黒褐色土、４層の黒色土から縄文～近世の遺物が出土し、５層のにぶい黄褐色土からは縄文早期から晩期の土器、石鏃、磨製石斧、石匙、扁平打製石斧などが出土した。７層の赤褐色土からは層位からして旧石器時代と考えられる黒曜石剥片・砕片が出土した。遺構は５層から集石が６基、自然流路沿いに６層上面から掘り込む形で５００基以上のピットと２基の落とし穴が検出された。

まとめ

１区から４区では、１層から４層にかけては縄文時代から近世までの遺物が混在して出土し、１層は表土、２層は床土、３層、４層については過去の農業用の客土ではないかと考えられる。５層は出土する土器から縄文時代早期から晩期にかけての包含層であると言える。また、出土遺物や、遺構から縄文時代に獲物の狩場として利用されていた可能性が高い。３区中央部西側からは７層より表面が風化した黒曜石の剥片や砕片が数点出土し、層位から見て、これまで大村地域の平地ではみられなかった旧石器時代の包含層であると考えられる。５区は１層から８層まで土層はしっかり残っていたが、遺物、遺構を検出することはできなかった。

調査風景

【調査担当：浦田・德弘・深堀・竹本・山下】（文責：浦田）

（１８）竹松遺跡（たけまついせき）【遺跡調査番号：２０１３０９】

所 在 地　大村市竹松町９４８番２他

調査主体　長崎県教育委員会　　**調査担当**　新幹線文化財調査事務所

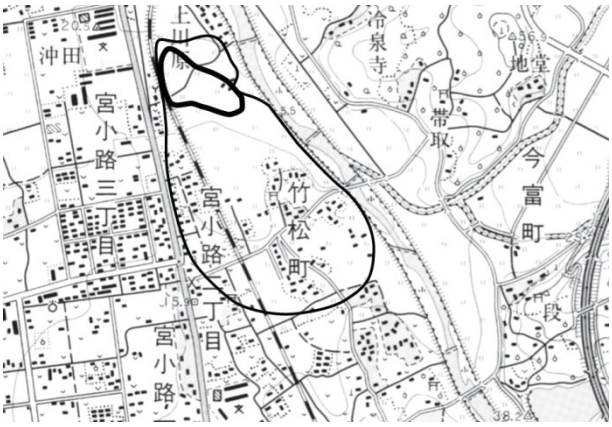
調査原因　新幹線関連　　**調査面積**　232 ㎡

調査期間　平成 25 年 10 月 21 日～12 月 2 日　　**調査区分**　範囲確認調査

報 告 書　刊行未定　　**処　　置**　本調査

立　地

本遺跡は大村市竹松町に所在し、縄文時代～中世の周知の遺跡である。大村市を東から西に流れる郡川によって形成された大村扇状地上に立地し、その北端部にあたる。標高は約 8～12mである。南から北へと低くなっていく。



竹松遺跡位置図〔武留路山〕（S＝1/25,000）

調　査

調査は、座標に合わせて 25m間隔の方眼を組み、2m×2m の試掘坑を 50 箇所、4m×4m の試掘坑を 2 箇所設定して進めた。調査の結果、弥生時代から古代・中世までの包含層が確認され、弥生時代の竪穴建物跡の可能性のある不明落込みや、古代から中世前半期に所属すると思われる柱穴などが確認された。その他、河川跡と思われる所や谷状地形のところ等々が確認された。調査対象範囲を南北に二分する形で走る市道を基準とすると、市道より北では、北端の TP1～TP4 までは河川供給の礫と思われるものが多く出土遺物もほとんど確認されなかった。TP17 では不明落込みの床面と思われる面にピットがあり、おそらく竪穴建物跡と思われる落ち込みを検出した。市道より南では、TP21、35、31、38 等で囲まれた範囲では出土遺物の量が多く、TP35、38 等では掘立柱建物跡の柱穴の可能性があるピット遺構等も検出された。

TP17 不明遺構検出状況

まとめ

調査対象地の北端部 TP1～TP4 までは河川供給の礫と思われるものが多く確認され、出土遺物もほとんど確認されなかった。それ以外の範囲では、縄文時代晩期土器から弥生時代、古墳時代、古代から中世にかけての土器や中国製輸入陶磁器等を確認した。また、柱穴等の遺構や竪穴建物跡と思われる不明遺構（落ち込み）も確認しており、この範囲での遺構・遺物の保存状態は良好である。この範囲は開発に当たっての協議対象となる。

【調査担当：村川・本田】（文責：村川）

（１９）竹松遺跡（たけまついせき）【遺跡調査番号：２０１３１１】

所 在 地　大村市竹松町 1042 番１　他

調査主体　長崎県教育委員会　　**調査担当**　新幹線文化財調査事務所

調査原因　都市計画道路「池田沖田線」建設　　**調査面積**　86 ㎡

調査期間　平成 25 年 12 月 3 日～12 月 26 日　　**調査区分**　範囲確認調査

報 告 書　刊行未定　　**処　　置**　本調査

立　地

竹松遺跡は大村扇状地の北側扇端付近、標高約 10～15mに立地する。現在九州新幹線建設のため遺跡の大部分で県教育委員会による緊急発掘調査が行われており、弥生時代後期の墓域や古代から中世にかけての多量の遺物が確認されている。

竹松遺跡位置図〔武留路山〕（S=１/25,000）

調　査

調査は２×２ｍの調査坑 17 か所を設定して行った。調査範囲のほぼ中央に未調査地を挟んでおり、南（TP１～TP７）と北（TP８～TP17）では堆積等が大きく分かれる。調査範囲南半では表土下に黒色土、暗褐色土、砂礫層の堆積が確認された。遺構は最南端の TP１で柱穴を１基確認している。遺物は弥生土器、土師器等が出土した。TP５～TP７では弥生土器、土師器が出土したがいずれも小片のみの出土だった。調査区北半は表土下に黒褐色土、褐色土、黒褐色土、灰黄褐色土、礫層が堆積する。礫層の検出レベルは北側ほど低くなる。TP10～TP14 では陶磁器、土師器、縄文土器等が、TP15～17 では流路内の堆積中から輸入陶磁器が出土した。

調査風景

まとめ

今回の調査では遺跡の様相が北側と南側で大きく分かれることが確認された。南側は TP１で遺構、遺物が確認されているが検出範囲が狭く、今後行われる TP１以南の確認調査と合わせて処置を判断すべきと考えた。北側では TP10～TP17 で流路や遺物が確認されており、平成 25 年度調査で多くの遺構・遺物が確認された新幹線路線部分に隣接することから本調査を行う必要がある。

【調査担当：山梨・新井】（文責：山梨）

（２０）竹松遺跡（たけまついせき）【遺跡調査番号：２０１３１２】

所 在 地　大村市竹松町９４８番２他

調査主体　長崎県教育委員会　　**調査担当**　新幹線文化財調査事務所

調査原因　大村市道拡幅　　**調査面積**　20 ㎡

調査期間　平成 25 年 10 月 21 日～12 月 2 日　　**調査区分**　範囲確認調査

報 告 書　刊行未定　　**処　　置**　一部本調査

立　地

今回の範囲確認調査対象地は、大村扇状地の北部に位置する。この大村扇状地は、扇形の東の扇頂部から西の扇端部は大村湾に没しているが、北端は現有の郡川によって境界が形成されている。竹松遺跡はこの郡川の南に所在し、調査地はその遺跡範囲内の南西部に位置する。現況では国道 34 号の東側で、昊天宮と宮小路派出所の間の市道が調査地である。東は、車両基地③の調査区に隣接している。

竹松遺跡位置図〔武留路山〕(S＝1/25,000)

調　査

試掘坑は、およそ２５m間隔で５箇所行った。調査の結果、５箇所の試掘調査坑の中で遺構・遺物の出土状況はＴＰ１、３、４から不明落込みが検出された。出土遺物の点数は少なくて、TP1 の 3 層（黒色土層）から古代のものと思われる土器が１点認められた他、TP5 の 3 層（礫層）から近世陶磁器 18 点、瓦が 1 点の計 20 点が出土した。土層は、TP１～４の範囲では、１黒色土層、２黒褐色土層、３黒色土層、４黒褐色土層、５黄褐色系粘質土層（明黄褐色～にぶい黄褐色等の色調の幅をもつ）という同一の様相を示すが、TP1、3、4 では不明落ち込みが確認され、遺構の一部にかかっている可能性もある。

TP17 不明遺構検出状況

まとめ

ＴＰ１、３、４で不明落ち込みを確認した。この落ち込み内の土層の堆積状況から近世以前の古代・中世に人工的に掘削された溝等の遺構である可能性が考えられる。また、出土遺物としては古代の土器や近世陶磁器等が出土した。不明遺構が確認された TP１～４の範囲（９４０㎡）は、開発に当たっての協議対象となる。

【調査担当：村川】（文責：村川）

ふりがな	ながさきけんまいぞうぶんかざいちょうさねんぽう22
書　名	長崎県埋蔵文化財調査調査年報22
副書名	平成25年度調査分
巻 次	22
シリーズ名	長崎県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第13集
編集機関	長崎県埋蔵文化財センター
所在地	〒811-5322　長崎県壱岐市芦辺町深江鶴亀触515-1　TEL0920（45）4080
発行年月日	2015年3月31日

所収遺跡名	所在地	遺跡コード		調査期間	調査面積㎡	調査原因
		市町	遺跡番号			
小浜遺跡	南松浦郡新上五島町	42441	032	20130924～20130927	8㎡	道路
鷹島海底遺跡	松浦市鷹島町	42208	162	20130819～20130830	10,000㎡	-
小手田遺跡	平戸市田平町	42207	304	20140203～20140214	40㎡	道路
原の辻遺跡	壱岐市芦辺町	42210	424	20131017～20131227	500㎡	保存
今福遺跡	松浦市今福町	42205	098	20130801～20131202	2,700㎡	道路
平野遺跡	大村市鬼橋町	42202	088	20130626～20131015	1,700㎡	新幹線関連
平野遺跡	大村市鬼橋町	42202	088	20131216～20131220	8㎡	新幹線関連
平野遺跡隣接地	大村市鬼橋町	42202	－	20140116～20140123	28㎡	道路
小路口遺跡	大村市鬼橋町	42205	092	20130626～20131030	2,000㎡	道路
尾和谷城跡	諫早市下大渡野町	42204	－	20130708～20130718	22㎡	新幹線関連
黒丸遺跡	大村市沖田町	42205	085	20140109～20140114	24㎡	道路
黒丸遺跡	大村市宮小路3丁目	42205	085	20140128～20140218	108㎡	学校建設関連
諫早市本明町18－②	諫早市本明町	42204	－	20140120～20140127	51㎡	新幹線関連
竹松遺跡	大村市竹松町	42205	086	20130527～20140115	11,500㎡	新幹線関連
竹松遺跡	大村市竹松町	42205	086	20130612～20140318	13,557㎡	新幹線関連
竹松遺跡	大村市竹松町	42205	086	20130527～20140314	5,340㎡（調査完了面積4,720㎡）	新幹線関連
竹松遺跡	大村市竹松町	42205	086	20130627～20140224	9,900㎡	新幹線関連
竹松遺跡	大村市竹松町	42205	086	20131021～20131202	232㎡	新幹線関連
竹松遺跡	大村市竹松町	42205	086	20131203～20131226	86㎡	道路
竹松遺跡	大村市竹松町	42205	086	20131021～20131202	20㎡	道路

長崎県埋蔵文化財センター調査報告書 第１３集

長崎県埋蔵文化財調査年報２２
［平成２５年度調査分］

2015年3月

発　行　長崎県教育委員会
長崎市江戸町2番13号

印　刷　有限会社 正文社印刷所
長崎市魚の町6番6号